

## 過疎地域の母子保健の調査研究 (第2報)

研究第3部 松島 富之助

研究第7部 高橋 種昭

### I 調査目的

現在我が国に於ては産業構造の変化、とくに第1次産業の衰退、第二次、第三次産業の隆盛に伴って、人口の都市集中が激しく、そのことは、一方に深刻な過疎現象に悩む地区が増加している。我々は昨年に引きつづき、

過疎地域の母子の心身の健康を守り、これを向上させるために必要な行政的施策にプラスになる諸条件を求める目的で研究調査を行って来たが、本年は下記の5つの県における過疎地域の母子の現状調査を行った。

### II 調査方法

1) 対象地域：福岡、鹿児島、鳥取、新潟、山口の5県につき、各県内の過疎現象の著しい地区を数カ所ずつ選出した。また対照の市街地には同県内の中心的都市を選んだ。

において、アンケート用紙(添付略)によって同伴者(主に母親)からアンケートを取った。

2) 調査方法：3才児検診又は1~2才児の検診の場

3) 調査人員：1つの県で過疎地域の小児が250名、対照地区の小児が250名、計500名で5県の合計2500名である。その内容は別表(A)の通りである。

表A アンケート回収状況

県名	地域	アンケート返送数	記入不全数	最終利用数	アンケート対象地
鳥取	過疎	212	162	50	日野郡、東伯郡、入頭郡、気高郡
	市街	100	50	50	米子市、鳥取市
新潟	過疎	252	152	100	上川村、相川町(高千)、赤泊村、大島村、栃尾市
	市街	261	161	100	長岡市、白根市、新潟市
鹿児島	過疎	239	139	100	大口市、肝属郡、西之表市、熊毛郡、給良郡、垂水郡、曾於郡、阿久根市、鹿児島郡、加世田市、揖宿郡、薩摩郡、大島郡、川辺郡、出水郡
	市街	197	97	100	鹿児島市
福岡	過疎	256	206	50	宗像郡、糸島郡、嘉穂郡、八女郡、朝倉郡、鞍手郡、直方市
	市街	154	104	50	山田市、三潞郡、八女郡、筑後市、久留米市、吹田市
山口	過疎	208	208	0	佐波郡、阿武郡
	市街	297	297	0	光市、防府市、山口市
計	過疎	1,167	867	300	
	市街	1,009	709	300	
総計		2,176	1,576	600	

第1表 対象児

項目	県名 地域 性別	鳥 取 県				新 潟 県				鹿 児 児	
		過 疎		市 街		過 疎		市 街		過 疎	
		♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
4才代	N			1	4					2	
"	%			4.8	13.8					3.9	
3才代	N	25	25	19	21	41	46	48	52	48	47
"	%	100.0	100.0	90.4	72.4	87.3	86.8	100.0	100.0	94.1	95.7
2才代	N			1	4	5	5			1	2
"	%			4.8	13.8	10.6	9.4			2.0	4.3
2才未満	N					1	2				
"	%					2.1	3.8				
計	N	25	25	21	29	47	53	48	52	51	49
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

### Ⅲ 調査成績

#### 1. アンケート回収状況

アンケート回収状況(表A)は良好であったが、山口県の調査が遅れたために集計に間に合わず、今回の集計は山口以外の4県について行った。アンケート記入が不完全なものが表Aの如くみられたので、完全な記入例の600例について分析した。

県別、過疎、市街地別、性別は第1表の通りである。

#### 2. 調査児の年齢

3才児が85%と大半を占めているが、2才児(7%)、1才児(6.8%)、4才児(1.3%)が少数みられた。(第1表)

#### 3. 家庭のプロフィール

##### 1) 家族構成

家族構成を、核家族Ⅰ(両親と子ども1人)、核家族Ⅱ(両親+子ども2人以上)、複合家族Ⅰ(両親+祖父母<うちどちらか>+子ども1人)、複合家族Ⅱ(複合Ⅰ+子ども2人以上)、複合家族Ⅲ(複合Ⅱ+その他の同居人)に分けて分析した。(第2表)

(1) 市街地、過疎地ともに核家族が最も多いが、市街

地の65%に比べると過疎地は49%とやや少なかった。しかし、予想したよりも過疎地の核家族化が進んでいる点に注目したい。

(2) 県別にみると大きい差がみられる。即ち、核家族化の進み具合は鹿児島県が最も高く市街地で86%、過疎地でも74%と高率であった。逆に核家族化の最も低かったのは新潟県で、市街地で46%、過疎地では22%にすぎない。鳥取県と福岡県はこの2つの県の間であった。

##### 2) 両親の職業

###### (1) 父親の職業(第3-1表)

①全体からみると会社員(34.4%)が最も多くついで公務員(20.3%)、農業(14.5%)、自営業(商店etc)9.0%の順であり、林業、漁業、鉱業は極めて少なかった。なお、その他(自由業etc)が19.7%を占めていた。

② 過疎地域においては公務員(27.4%)、農業(22.7%)、会社員(20.0%)が大部分を占めていて、ついで商店経営(7.3%)であった。市街地では会社員が過半数を占めていて、公務員や農業は少ない点が対照的であった。

###### (2) 母親の職業(第3-2表)

① 全体からみると、無職が最も多く、農業がこれに次いでいる。

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

の 性 と 年 令

島 県		福 岡 県				合 計				総 計		
市 街		過 疎		市 街		過 疎		市 街		過疎	市街	計
♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀			
				1		2	0	2	4	2	6	8
				4.5		1.5	0	1.5	2.4	0.7	2.0	1.3
45	55	8	15	3	11	122	133	115	139	255	254	509
100.0	100.0	33.3	57.7	13.7	39.3	83.0	87.0	84.5	84.8	85.0	84.7	84.9
		7	3	9	5	13	10	10	9	23	19	42
		29.1	11.5	40.9	17.9	8.8	6.5	7.4	5.5	7.6	6.3	7.0
		9	8	9	12	10	10	9	12	20	21	41
		37.6	30.8	40.9	42.8	6.8	6.5	6.6	7.3	6.7	7.0	6.8
45	55	24	26	22	28	147	153	136	164	300	300	600
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第2表 家 族 構 成

項目	県名 災 数と % 地域	鳥 取 県		新 潟 県		鹿 児 島 県		福 岡 県		計		総 計
		過 疎	市 街	過 疎	市 街	過 疎	市 街	過 疎	市 街	過 疎	市 街	
核 家 族	N	3	6	5	11	6	8	13	18	27	43	7.0
I	%	6.0	12.0	5.0	11.0	6.0	8.0	26.0	36.0	9.0	14.3	11.7
核 家 族	N	21	25	17	35	68	78	14	14	120	152	272
II	%	42.0	50.0	17.0	35.0	68.0	78.0	28.0	28.0	40.0	50.6	45.3
複 合 家 族	N	2	2	12	7	1		9	5	24	14	38
I	%	4.0	4.0	12.0	14.0	1.0		18.0	10.0	8.0	4.7	6.3
複 合 家 族	N	16	10	50	28	19	10	6	8	91	56	147
II	%	32.0	20.0	50.0	28.0	19.0	10.0	12.0	16.0	30.3	18.7	24.5
複 合 家 族	N	8	7	16	19	6	4	8	5	38	35	73
III	%	16.0	14.0	16.0	19.0	12.0	4.0	16.0	10.0	12.7	11.7	12.2
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第3—1表 父親の職業

項目	県名		鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
	実数	%	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
			N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	
無し	N		2		1						1	2	3
	%		4.0		1.0						0.3	0.7	0.5
農業	N	6		39	16	13	1	10	2	68	19	87	
	%	12.0		39.0	16.0	13.0	1.0	20.0	4.0	22.7	6.3	14.5	
鉱業	N								1		1	1	
	%								2.0		0.3	0.2	
公務員	N	8	12	18	7	47	17	9	4	82	40	122	
	%	16.0	24.0	18.0	7.0	47.0	17.0	18.0	8.0	27.4	13.3	20.3	
会社員	N	18	21	12	50	10	49	20	26	60	146	206	
	%	36.0	42.0	12.0	50.0	10.0	49.0	40.0	52.0	20.0	48.7	34.4	
商店経営	N	2	4	4	13	14	12	2	3	22	32	54	
	%	4.0	8.0	4.0	13.0	14.0	12.0	4.0	6.0	7.3	10.7	9.0	
日雇い	N			4			1			4	1	5	
	%			4.0			1.0			1.3	0.3	0.8	
その他	N	16	9	21	13	16	20	9	14	62	56	118	
	%	32.0	18.0	21.0	13.0	16.0	20.0	18.0	28.0	20.7	18.7	19.7	
記なし	N		2	1	1					1	3	4	
	%		4.0	1.0	1.0					0.3	1.0	0.6	
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600	
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

② 過疎地の母親は無職が44.3%と最も多いが、市街地の64.7%に比べるとはるかに少い。その反面農業が27.7%（市街地6%）と多くなっている。

③ 県別にみると、過疎地の中で新潟県には農業が52%もあって最も高いが、他の県では農業が少い。

(3) 出稼ぎ（第3—3表）

全体からみると過疎地で7.7%（市街地2.0%）にみられ、殊に新潟県では20.0%、鹿児島県では3.0%みられた。しかし鳥取、福岡の両県には、出稼ぎがみられなかった。

3) 主な保育者（第3—4表）

全体からみると、過疎地も市街地も母親が最も多いのは当然のことであるが、祖母が主な保育者である例は過疎地で9.5%（市街地6.3%）となっている。

4) 両親の学歴

(1) 父の学歴（第4—1表）

全体からみると高校卒などの中等教育を受けたものが約半数を占めているが、過疎地では市街地よりもその%がやや低く、初等教育のみのものが35%（市街地23.7%）と多くなっている。大学や短大卒のものは両地域ともに約14~17%で差はほとんどみられなかった。

(2) 母の学歴（第4—2表）

全体からみると、中等教育をうけたものが最も多く、ついで初等教育であり、高等教育をうけたものは7~8%であることは、父の学歴と非常によく似ている。また、過疎地のものに初等教育のみが約40%（市街地30%）と比較的多いのも父のそれと同様であった。

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第3-2表 母親の職業

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
無し	N	20	24	13	54	64	73	36	43	133	194	327
	%	40.0	48.0	13.0	54.0	64.0	73.0	72.0	86.0	44.3	64.7	54.4
農業	N	11		52	17	13		7		83	18	91
	%	22.0		52.0	17.0	13.0		14.0		27.7	6.0	16.8
公務員	N	4	2	6	5	1			4	11	11	22
	%	8.0	4.0	6.0	5.0	1.0			8.0	3.7	3.7	3.7
会社員	N	7	8	9	8	1	2	1	1	18	19	37
	%	14.0	16.0	9.0	8.0	1.0	2.0	2.0	2.0	6.0	6.3	6.2
商店経営	N	2	2	3	4	7	7	1	1	13	14	27
	%	4.0	4.0	3.0	4.0	7.0	7.0	2.0	2.0	4.3	4.7	4.5
パート	N		4	3						3	4	7
	%		8.0	3.0						1.0	1.3	1.2
その他	N	6	6	8	7	9	6	4		27	19	46
	%	12.0	12.0	8.0	7.0	9.0	6.0	8.0		9.0	6.3	7.7
記なし	N		4	6	5	5	12	1		12	21	33
	%		8.0	6.0	5.0	5.0	12.0	2.0		4.0	7.0	5.5
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第3-3表 出稼ぎ

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
無し	N	37	23	76	84	72	96	15	27	200	230	430
	%	74.0	46.0	76.0	84.0	72.0	96.0	30.0	54.0	66.7	26.7	71.7
あり	N			20	5	3	1			23	6	29
	%			20.0	5.0	3.0	1.0			7.7	2.0	4.8
記なし	N	13	27	4	11	25	3	35	23	77	64	141
	%	26.0	54.0	4.0	11.0	25.0	3.0	70.0	46.0	25.6	21.3	23.5
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100	100	100.0	100.0	100.0

第3—4表 子供の世話をする人

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
母	N	36	29	60	74	80	99	38	27	214	229	443
	%	72.0	58.0	60.0	74.0	80.0	99.0	76.0	54.0	72.0	56.7	73.8
祖母	N	5	4	24	16	2	1	1		32	21	53
	%	10.0	8.0	24.0	16.0	2.0	1.0	2.0		9.5	6.3	8.8
その他	N			1	3					1	3	4
	%			1.0	3.0					0.3	0.8	0.7
記なし	N	9	17	15	7	18		11	23	53	47	100
	%	18.0	34.0	15.0	7.0	18.0		22.0	46.0	18.2	21.8	16.7
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第4—1表 父親の学歴

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
高等教育	N	4	10	9	15	19	22	10	5	42	52	94
	%	8.0	20.0	9.0	15.0	19.0	22.0	20.0	10.0	14.0	17.3	15.7
中等教育	N	22	28	39	51	46	48	27	31	134	158	292
	%	44.0	56.0	39.0	51.0	46.0	48.0	54.0	62.0	44.7	52.7	48.7
初等教育	N	20	9	45	31	30	26	10	5	105	71	176
	%	40.0	18.0	45.0	31.0	30.0	26.0	20.0	10.0	35.0	23.7	29.3
記なし	N	4	3	7	3	5	4	3	9	19	19	38
	%	8.0	6.0	7.0	3.0	5.0	4.0	6.0	18.0	6.3	6.3	6.3
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第4—2表 母親の学歴

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
高等教育	N	5	7	4	4	7	9	5	4	21	24	45
	%	10.0	14.0	4.0	4.0	7.0	9.0	10.0	8.0	7.0	8.0	7.5
中等教育	N	24	27	26	49	57	60	30	28	137	164	301
	%	48.0	54.0	26.0	49.0	57.0	60.0	60.0	56.0	45.6	54.7	50.2
初等教育	N	16	10	62	45	31	27	10	8	119	90	209
	%	32.0	20.0	62.0	45.0	31.0	27.0	20.0	16.0	39.7	30.0	34.8
記なし	N	5	6	8	2	5	4	5	10	23	22	45
	%	10.0	12.0	8.0	2.0	5.0	4.0	10.0	20.0	7.7	7.3	7.5
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第4-3表 子供について困る問題

項目	県名 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		計		総計	
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街		
無し	N	32	19	74	65	71	73	30	33	207	190	397	
	%	64.0	38.0	74.0	65.0	71.0	73.0	60.0	66.0	69.0	63.3	66.2	
あり	N	14	30	26	34	29	27	19	13	88	104	192	
	%	28.0	60.0	26.0	34.0	29.0	27.0	38.0	26.0	29.3	34.7	32.0	
記なし	N	4	1	0	1	0	0	1	4	5	6	11	
	%	8.0	2.0	0	1.0	0	0	2.0	8.0	1.7	2.0	1.8	
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600	
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
困る問題がある場合の内容	栄養	N	2	2	4	2	0	1	4	0	10	5	15
		%	14.3	5.7	14.3	5.6	0	3.7	21.1	0	11.1	4.5	7.4
	身体発育	N	1	4	6	4	2	3	4	3	13	14	27
		%	7.1	11.5	21.4	11.1	6.9	11.1	21.1	21.4	14.4	12.5	13.4
	生活習慣	N	4	13	6	11	13	11	6	3	29	38	67
		%	28.6	37.1	21.4	30.6	44.8	40.8	31.5	21.4	32.2	33.9	33.1
	心理面	N	4	13	8	12	12	9	2	3	26	37	63
%		28.6	37.1	28.7	33.2	41.4	33.3	10.5	21.4	28.9	33.0	31.2	
その他	N	2	1	2	6	2	2	2	4	8	13	21	
	%	14.3	2.9	7.1	16.7	6.9	7.4	10.5	28.7	8.9	11.6	10.4	
記なし	N	1	2	2	1	0	1	1	1	4	5	9	
	%	7.1	5.7	7.1	2.8	0	3.7	5.3	7.1	4.5	4.5	4.5	
計	N	14	35	28	36	29	27	19	14	90	112	202	
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

4. 小児の保健

1) 小児について困る問題 (第4-3表)

(1) 全体の約1/3に問題があるが、過疎地で29.3%で、市街地 (34.7%) より少し少ない傾向がみられた。

過疎地別の困る問題の頻度は、県によって差がみられなかったが、市街地では鳥取県に多く、福岡県で少い傾向がみられた。

(2) 困る問題の内容

① 全体からみると生活習慣の問題 (33.1%) と心理的な問題 (31.2%) が同程度の頻度で高く、あとは身体発育 (13.4%)、その他 (10.4%)、栄養 (7.4%) の順であった。

② 困る問題の内容は過疎地、市街地とも大同小異であるが、しいていえば、過疎地では栄養11.1% (市街地4.5%) と比較的多く、心理的な問題がやや少い傾向がみられた。

2) 小児の現在の健康状態 (第4-4表)

(1) 全体からみると「普通」と答えたものが50.4%と最も多く、ついで「よい」が32.5%であって、この2つが大半を占めていた。

問題は「少し悪い」が6.8%、「非常に悪い」が0.3%と、合わせて約7%のものが不健康を訴えている事である。

(2) この不健康な小児は各県とも6~8%の発生率が差がみられなかった。

第4-4表 現在の健康状態

項目	実数と% N %	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
非常に悪い	N %			1 1.0					1 2.0	1 0.3	1 0.3	2 0.3
少し悪い	N %	1 2.0	5 10.0	3 3.0	11 11.0	5 5.0	11 11.0	3 6.0	2 4.0	12 4.0	29 9.6	41 6.8
普通	N %	21 42.0	21 42.0	70 70.0	54 54.0	46 46.0	47 47.0	23 46.0	20 40.0	160 53.4	142 47.4	302 50.4
よい	N %	22 44.0	19 38.0	21 21.0	28 28.0	32 32.0	34 34.0	19 38.0	20 40.0	94 31.3	101 33.7	195 32.5
非常によい	N %	6 12.0	5 10.0	5 5.0	6 6.0	17 17.0	8 8.0	3 6.0	6 12.0	31 10.3	25 8.3	56 9.3
記なし	N %				1 1.0			2 4.0	1 2.0	2 0.7	2 0.7	4 0.7
計	N %	50 100.0	50 100.0	100 100.0	100 100.0	100 100.0	100 100.0	50 100.0	50 100.0	300 100.0	300 100.0	600 100.0

第5-1表 出生時

項目	実数と% N %	鳥取県				新潟県				鹿児島県	
		過疎		市街		過疎		市街		過疎	市街
		♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
1500g以下	N %										
1,501~2,000g	N %							1 1.9	1 2.1	1 1.9	1 2.0
2,001~2,500g	N %	1 4.0	1 4.0	1 4.8		1 2.1	5 9.4	1 2.1	3 5.8		2 4.1
2,501~3,000g	N %	4 16.0	10 40.0	8 38.1	16 55.3	12 25.5	20 37.7	10 20.8	20 38.4	11 21.6	19 38.8
3,001~3,500g	N %	10 40.0	9 36.0	8 38.1	8 27.6	23 49.0	23 43.4	25 52.0	17 32.7	24 46.9	19 38.8
3,501~4,000g	N %	8 32.0	4 16.0	4 19.0	3 10.3	8 17.0	3 5.7	9 18.8	11 21.2	11 21.6	8 16.3
4,001g以上	N %	2 8.0	1 4.0		1 3.4	3 6.4		2 4.2		3 5.9	
記なし	N %				1 3.4		1 1.9			1 2.0	1 2.0
計	N %	25 100.0	25 100.0	21 100.0	29 100.0	47 100.0	53 100.0	48 100.0	52 100.0	51 100.0	49 100.0
平均出生時体重 (g)		3,417	3,121	3,155	3,044	3,105	2,948	3,250	3,068	3,302	3,131



松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

(3) 不健康な小児は過疎地では4.3%（市街地9.9%）  
で市街地の半以下となり、むしろ少ないようである。

(3) 過疎地では慢性疾患保有率は1%にすぎないが市街地では8.3%と有意差をもって高かった。

3) 慢性的疾患保有率（第4—5表）

5. 小児の発育

(1) 全体からみると慢性疾患保有率は4.8%であった。

1) 出生時体重（第5—1表）

(2) 県別では鳥取県では非常に少く（1%）、他の県では4.5~6.5%の間で大差はなかった。

(1) 出生時体重の平均（第5—1—a表）は過疎、市街

第4—5表 慢性的な病気

項目	県名 地域 実数と %	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
あり	N		1	1	8	1	12	1	5	3	26	29
	%		2.0	1.0	8.0	1.0	12.0	2.0	10.0	1.0	8.7	4.8
記なし	N	50	49	99	92	99	88	49	45	297	274	571
	%	100.0	98.0	99.0	92.0	99.0	88.0	98.0	90.0	99.0	91.3	95.2
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

体 重

島 県		福 岡 県				合 計				総 計		
市 街		過 疎		市 街		過 疎		市 街		過 疎	市街	計
♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀			
		1		1	1	1		1	1	1	2	3
		4.2		4.5	3.6	0.7		0.7	0.6	0.3	0.7	0.5
1					2	1	1	2	3	2	5	7
2.2					7.1	0.7	0.7	1.4	1.8	0.7	1.7	1.2
1	4	2	1			4	9	3	7	13	10	23
2.2	7.3	8.3	3.8			2.7	5.9	2.2	4.3	4.3	3.3	3.8
12	11	8	15	5	8	35	64	35	55	99	90	189
26.7	20.0	33.3	57.7	22.7	28.6	23.8	41.7	25.7	33.5	33.0	30.0	31.5
18	30	8	10	12	11	65	61	63	66	126	129	255
40.0	54.5	33.3	38.5	54.6	39.3	44.2	39.9	46.4	40.3	42.1	43.0	42.5
10	9	4		4	6	31	15	27	29	46	56	102
22.2	16.4	16.7		18.2	21.4	21.1	9.8	19.9	17.7	15.3	18.7	17.0
3	1	1				9	1	5	2	10	7	17
6.7	1.8	4.2				6.1	0.7	3.7	1.2	3.3	2.3	2.8
						1	2		1	3	1	4
						0.7	1.3		0.6	1.0	0.3	0.7
45	55	24	26	22	28	147	153	136	164	300	300	600
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
3,233	3,181	3,080	2,891	3,171	3,058	3,259	3,025	3,217	3,100	♂ 3,239	♀ 3,064	

第5-1a表・県地域別出生時体重の平均 (g)

県名	地域	男	女
鳥取	過疎	3,417	3,121
	市街	3,155	3,044
	県平均	3,297	3,080
新潟	過疎	3,105	2,948
	市街	3,250	3,068
	県平均	3,234	3,008
鹿児島	過疎	3,302	3,131
	市街	3,233	3,181
	県平均	3,270	3,158
福岡	過疎	3,080	2,891
	市街	3,171	3,058
	県平均	3,124	2,978
総計	過疎	3,259	3,025
	市街	3,217	3,100
	総平均	3,239	3,064

地ともに差がみられず、全国平均に近いものであった。

(2) 低体重児の出生頻度は、①、全体からみると600例中33例(5.5%)であって、全国平均と比べても同じか、やや少ない程度である。

(3) 過疎地で低体重児の発生は5.3%で市街地の5.7%とほぼ同値であった。

(4) 県別の差はほとんどなかった。

2) 身長の評価(第5-2表)

昭和45年度厚生省発育値をもとに、身長の

優-( $M+\sigma$ 以上), 大-( $M+\frac{\sigma}{2}\sim M+\sigma$ )

中-( $M+\frac{\sigma}{2}\sim M-\frac{\sigma}{2}$ ), 小-( $M-\frac{\sigma}{2}\sim M-\sigma$ )

劣-( $M-\sigma$ 以下)として、県別、地域別に分類評価した。

(1) 全体からみると、優(33.8%)と中(28.3%)がほぼ同じくらいで、ついで大(22.3%), 劣(8.8%), 小(7%)の順であった。

(2) 過疎地では優(31.0%)と中(30.7%)で全く同じで最も多かったが、市街地の優(36.7%), 中(26%)に比べると、優が少く中が多い。小は両地域間に差はなかったが、劣は過疎地に多く市街地の2倍以上みられた。(過疎地12.3%, 市街地5.3%)

第5-2表 身長の評価

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
優	N	22	19	29	36	27	46	15	9	93	110	203
	%	44.0	38.0	29.0	36.0	27.0	46.0	30.0	18.0	31.0	36.7	33.8
大	N	11	12	22	26	19	29	4	8	56	75	131
	%	22.0	24.0	22.0	26.0	19.0	29.0	8.0	16.0	18.7	25.0	12.8
中	N	15	12	34	28	24	17	19	21	92	78	170
	%	30.0	24.0	34.0	28.0	24.0	17.0	38.0	42.0	30.7	26.0	28.3
小	N	1	3	5	6	13	4	3	7	22	20	42
	%	2.0	6.0	5.0	6.5	13.0	4.0	6.0	14.0	7.3	6.7	7.0
劣	N	1	4	10	4	17	4	9	4	37	16	53
	%	2.0	8.0	10.0	4.0	17.0	4.0	18.0	8.0	12.3	5.3	8.8
記なし	N								1		1	2
	%								2.0		0.3	0.3
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

(3) 県別では、鹿児島、福岡県に小や劣が多く、とくに両県の過疎地の小児にこの傾向が著とかった。

3) カウプ指数 (第5—3表)

(1) 全体からみると

① 大半が15.1~18.0の正常値に集中しているのは当然のことといえよう。

② やせ (13.1~15.0) に相当するは、600例中134例 (22.3%) と非常に多くみられている。例えば愛育病院保健指導部ではやせが (824例中11例1.3%にすぎなかった。)

13.0以下は栄養失調症と考えられているが5例(8.3%)もみられた点は注目に値する。

④ 20.1以上の肥満傾向児は6例(1%)にみられたが一般傾向からみると少ないようである。

(2) 過疎地の小児では、

① やせ (13.1~15.0) は300例中60例 (20%) みられたが市街地の24.7%に比べるとむしろ少ない傾向にすらある。

② しかし栄養失調症 (13.0以下) が4例 (1.3%) みられている点は3才児の健康診査と保健指導の充実が

望まれる。(市街地0.3%)

③ 肥満傾向は4例 (1.3%) みられたが明らかな肥満は鹿児島県の1例にすぎなかった。(市街地0.7%)

(3) 県別には大差がみられない。

6. 栄養の問題

1) 現在の食欲 (第6—1表)

小児の食欲に対する母親の意識を

1. 心配なくらい食べると思う。
2. よく食べると思う。
3. 普通と思う。
4. あまり食べないと思う。
5. 心配なくらい食べないと思う。
6. むら食いが強いと思う。

の6段階に分けて調査した結果。

(1) 全体からみると「普通」(44.8%) が最も多く次いで「よく食べる」(24.0%) 「あまり食べない」(16.5%) の順があり、他は少ない。(心配なくらい食べる6%, 心配なくらい食べない3.7%, むら食い3.8%)

(2) 過疎地では市街地と比べて差がないが、強いてい

第5—3表 カウプ指数

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
22.1以上	N					1				1		1
	%					1.0				0.3		0.2
20.1~ 22.0	N	1			1			2	1	3	2	5
	%	2.0			1.0			4.0	2.0	1.0	0.7	0.8
18.1~ 20.0	N	4	2	2	6	4	3	5	11	15	22	37
	%	8.0	4.0	2.0	6.0	4.0	3.0	10.0	22.0	5.0	7.3	6.2
15.1~ 18.0	N	31	32	69	66	77	70	40	33	217	201	418
	%	62.0	64.0	69.0	66.0	77.0	70.0	80.0	66.0	72.4	67.0	69.6
13.1~ 15.0	N	13	16	28	26	16	27	3	5	60	74	134
	%	26.0	32.0	28.0	26.0	16.0	27.0	6.0	10.0	20.0	24.7	22.3
10.1~ 13.0	N	1		1		2				4		4
	%	2.0		1.0		2.0				1.3		0.7
10.0以下	N				1						1	1
	%				1.0						0.3	0.2
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第6-1表 現在の食欲

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
心配なく ぐらいいよく 食べる	N	4	3	4	3	10	3	6	3	24	12	36
	%	8.0	6.0	4.0	3.0	10.0	3.0	12.0	6.0	8.0	4.0	6.0
よく食べる	N	18	10	15	16	24	25	14	22	71	73	144
	%	36.0	20.0	15.0	16.0	24.0	25.0	28.0	44.0	23.7	24.3	24.0
普通	N	20	18	50	49	45	50	15	22	130	139	269
	%	40.0	36.0	50.0	49.0	45.0	50.0	30.0	44.0	43.3	46.4	44.8
あまり食 べない	N	4	9	24	16	16	18	10	2	54	45	99
	%	8.0	18.0	24.0	16.0	16.0	18.0	20.0	4.0	18.0	15.0	16.5
心配なく ぐらいいよく 食べない	N	1	6	4	6	2	1	1	1	8	14	22
	%	2.0	12.0	4.0	6.0	2.0	1.0	2.0	2.0	2.7	4.7	3.7
むら食い	N	2	4	2	9	2	3	1		7	16	23
	%	4.0	8.0	2.0	9.0	2.0	3.0	2.0		2.3	5.3	3.8
記なし	N	1		1	1	1		3		6	1	7
	%	2.0		1.0	1.0	1.0		6.0		2.0	0.3	1.2
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第6-2表 食事の内容

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
ごはんなどが 大部分	N	4	6	11	15	10	11	4	9	29	41	70
	%	8.0	12.0	11.0	15.0	10.0	11.0	8.0	18.0	9.7	13.7	11.7
ごはんとおかず 半々ぐらい	N	21	16	50	42	46	38	18	25	135	121	256
	%	42.0	32.0	50.0	42.0	46.0	38.0	36.0	50.0	45.0	40.3	42.7
おかずの 方が多い	N	18	18	17	24	33	32	11	11	79	85	164
	%	36.0	36.0	17.0	24.0	33.0	32.0	22.0	22.0	26.3	28.3	27.3
むらがあ って何と もいえない	N	7	9	20	18	10	16	7	2	44	45	89
	%	14.0	18.0	20.0	18.0	10.0	16.0	14.0	4.0	14.7	15.0	14.8
その他	N			1		1	3	1		3	3	6
	%			1.0		1.0	3.0	2.0		1.0	1.0	1.0
記なし	N		1	1	1			9	3	10	5	15
	%		2.0	1.0	1.0			18.0	6.0	3.3	1.7	2.5
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第6-3表 主食

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
米 飯	N	26	22	67	52	57	49	20	22	170	145	315
	%	52.0	44.0	67.0	52.0	57.0	49.0	40.0	44.0	32.7	48.3	52.4
パン	N	2	0	0	1	4	7	2	0	8	8	16
	%	4.0			1.0	4.0	7.0	4.0		2.6	2.7	2.7
麵 類	N	4	4	2	17	10	23	5	4	21	48	69
	%	8.0	8.0	2.0	17.0	10.0	23.0	10.0	8.0	7.0	16.0	11.5
芋	N	0	0	1	0	0	0	0	0	1		1
	%			1.0						0.3		0.2
その他	N	0	1	0	2	2	2	0	0	2	5	7
	%		2.0		2.0	2.0	2.0			0.6	1.7	1.2
記なし	N	18	23	30	28	27	19	23	24	98	94	192
	%	36.0	46.0	30.0	28.0	27.0	19.0	46.0	48.0	56.8	31.3	32.0
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第6-4表 よく使われる副食

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		合計 (対実数)	
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街
大豆製品	N	24	19	76	66	63	60	36	44	199	189		
	%	16.6	12.5	26.6	21.7	21.1	19.3	26.3	31.0	23.0	20.8	66.3	63.0
卵	N	43	42	85	80	83	79	42	37	253	238		
	%	29.6	27.7	29.8	26.3	27.8	25.4	30.7	26.1	29.1	26.1	84.3	79.3
魚	N	41	38	69	66	66	58	31	24	207	186		
	%	28.3	25.0	24.1	21.7	22.1	18.6	22.6	16.9	23.9	20.5	69.0	62.0
肉	N	28	41	40	65	71	87	18	23	157	216		
	%	19.3	27.0	14.0	21.4	23.7	28.0	13.1	16.2	18.1	23.8	52.3	72.0
チーズ	N	1	6	9	15	9	9	0	8	19	38		
	%	0.7	3.9	3.1	4.9	3.0	2.9		5.6	2.2	4.2	6.3	12.7
レバー	N	2	0	1	2	1	7	7	0	11	9		
	%	1.4		0.3	0.7	0.3	2.3	5.1		1.3	1.0	3.7	3.0
その他	N	5	6	6	10	6	11	3	6	20	33		
	%	3.4	3.9	2.1	3.3	2.0	3.5	2.2	4.2	2.3	3.6	0.7	11.0
記なし	N	1								1	0		
	%	0.7								0.1		0.3	
計	N	145	152	286	304	299	311	137	142	867	909	300	300
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		

えば、心配なくらいよくたべる子が比較的多く(過疎8%, 市街4%), また反対に心配なくらいたべない子は2.7%(市街4.7%), むら食いする子2.3%(市街5.3%)で比較的少なかった。

2) 食事の内容(第6-2表)

(1) 全体からみると「ごはんとおかず半々」のものが最も多く(42.7%), しかも過疎地、市街地に差がみられなかった。次いで「おかずの方が多い」(27.3%),

「むらがあって何ともいえない」(14.8%), 「ごはんが大部分」(11.7%)の順である。

(2) 過疎地と市街地の間にほとんど差はみられなかった。

3) 主食(第6-3表)

(1) 主食は米飯が最も多い(52.5%)のは当然であるが、記なしも多かった。めん類が11.5%を占め、パンは2.7%であった。

第6-5表 魚を使う日(I週)

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
使わない	N						1	1	1	1	2	3
	%						1.0	2.0	2.0	0.3	0.7	0.5
2日/週	N	6	9	32	27	25	35	11	30	74	101	175
	%	12.0	18.0	32.0	27.0	25.0	35.0	22.0	60.0	24.7	33.7	29.7
3-4日/週	N	28	26	39	55	56	49	20	15	143	145	288
	%	56.0	52.0	39.0	55.0	56.0	49.0	40.0	30.0	47.6	48.3	47.5
殆んど毎日/週	N	15	15	29	18	19	15	17	1	80	49	129
	%	30.0	30.0	29.0	18.0	19.0	15.0	34.0	2.0	26.7	16.3	21.5
記なし	N	1						1	3	2	3	5
	%	2.0						2.0	6.0	0.7	1.0	0.8
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第6-6表 肉を使う日(I週)

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
使わない	N	1		4	1	1		2	2	8	3	11
	%	2.0		4.0	1.0	1.0		4.0	4.0	2.7	1.0	1.8
1-2日/週	N	22	12	62	33	10	14	17	12	111	71	182
	%	44.0	24.0	62.0	33.0	10.0	14.0	34.0	24.0	37.0	23.7	30.3
3-4日/週	N	19	32	23	57	63	59	24	23	129	171	300
	%	38.0	64.0	23.0	57.0	63.0	59.0	48.0	46.0	43.0	57.0	50.0
殆んど毎日/週	N	6	6	4	9	26	27	3	10	39	52	91
	%	12.0	12.0	4.0	9.0	26.0	27.0	6.0	20.0	13.0	17.3	15.2
記なし	N	2		7				4	3	13	3	16
	%	4.0		7.0				8.0	6.0	4.3	1.0	2.7
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

(2) 新潟及び鹿児島県の過疎地では米飯が市街地比べて多く、めん類の%は低いが、鳥取、福岡県では差がみられなかった。

4) 副食

ふだんよく使う副食を3つ選ばせた結果は(第6-4表)の通りである。

(1) 最もよく利用されているものは、両地域共通しており、総計でみても、卵(98.5%)が最も高率であり、

次いで魚(65.5%)、大豆製品(64.7%)、肉(62%)の順に多い。チーズ、バターの利用は低い。

(2) 過疎地では市街地比べて、肉やチーズの利用が少なく、その反面、大豆、卵、魚の利用が比較的多いといえよう。

(3) 県別にはあまり差がみられなかった。

5) 1週間のうちで魚を使う頻度(第6-5表)

(1) 過疎地、市街地とも、週3~4日が約48%と最も

第6-7表 卵を使う日(I週)

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
使わない	N											
	%											
1-2日/週	N	6	5	7	18	12	11	7	11	32	45	77
	%	12.0	10.0	7.0	18.0	12.0	11.0	14.0	22.0	10.7	15.0	12.8
3-4日/週	N	18	11	29	24	13	27	13	13	73	75	148
	%	36.0	22.0	29.0	24.0	13.0	27.0	26.0	26.0	24.3	25.5	24.7
殆んど毎日/週	N	24	34	60	57	74	61	27	26	185	178	363
	%	48.0	68.0	60.0	57.0	74.0	61.0	54.0	52.0	61.7	59.3	60.5
記なし	N	2		4	1	1	1	3		10	2	12
	%	4.0		4.0	1.0	1.0	1.0	6.0		3.3	0.7	2.0
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第6-8表 とうふ、豆製品を使う日(I週)

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
使わない	N	1				3				4		4
	%	2.0				3.0				1.3		0.6
1-2日/週	N	21	19	43	46	16	30	16	16	96	111	207
	%	42.0	38.0	43.0	46.0	16.0	30.0	32.0	32.0	32.0	37.1	34.5
3-4日/週	N	22	18	27	30	48	42	20	16	117	106	223
	%	44.0	36.0	27.0	30.0	48.0	42.0	40.0	32.0	39.0	35.3	37.2
殆んど毎日/週	N	5	12	24	19	29	23	8	13	66	67	133
	%	10.0	24.0	24.0	19.0	29.0	23.0	16.0	26.0	22.0	22.3	22.2
記なし	N	1	1	6	5	4	5	6	5	17	16	33
	%	2.0	2.0	6.0	5.0	4.0	5.0	12.0	10.0	5.7	5.3	5.5
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

多く、この点では差がなかったが、過疎地の方が毎日使うものの数が多い。

6) 1週間のうちで肉を使う頻度 (第6-6表)

(1) 全体からみると、週3~4日が50.0%と最も多く、次いで週1~2日(30.3%), ほとんど毎日(15.2%)の順で、全く肉を使わないものは、1.8%にすぎなかった。

(2) 過疎地では市街地に比べて、肉の使用頻度は低い

傾向にある。

(3) 県別には、鹿児島県を除いて過疎地の方が肉の使用頻度が低いのが一般的傾向である。

7) 1週間のうちで卵を使う頻度 (第6-7表)

(1) 全体からみるとほとんど毎日使うものが過半数を占め、次いで週3~4日(約25%), 1~2日(約10%)であり使わないものは1例もない。

(2) 過疎地、市街地の間、県の間には大きな差はみら

第6-9表 脂肪の使い方

項目	県名		鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
	実数	%	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
毎日使う	N		23	34	50	59	54	68	18	20	145	181	326
	%		46.0	68.0	50.0	59.0	54.0	68.0	36.0	40.0	48.4	60.4	54.3
週に何回か使う	N		23	14	48	35	42	30	23	18	136	97	233
	%		46.0	28.0	48.0	35.0	42.0	30.0	46.0	36.0	45.3	32.3	38.8
殆んど使わない	N		1	0	2	2	1	2	2	6	6	10	16
	%		2.0	0	2.0	2.0	1.0	2.0	4.0	12.0	2.0	3.3	2.7
記なし	N		3	2	0	4	3	0	7	6	13	12	25
	%		6.0	4.0	0	4.0	3.0	0	14.0	12.0	4.3	4.0	4.2
計	N		50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第7-2表 戸外の

項目	県名		鳥取県				新潟県				鹿児島	
	実数と%	地域性別	過疎		市街		過疎		市街		過疎	
			♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
なし	N		0	0	0	0	1	1	6	10	0	0
	%						2.1	1.9	12.5	19.2		
1時間未満	N		3	2	5	5	5	12	10	10	2	0
	%		12.0	8.0	23.8	17.2	10.6	22.6	20.8	19.2	3.9	
1-2時間	N		11	11	7	6	21	23	16	14	17	17
	%		44.0	44.0	33.4	20.7	44.8	43.4	33.3	26.9	33.3	34.7
3時間以上	N		10	2	4	8	16	6	15	15	32	29
	%		40.0	8.0	19.0	27.6	34.0	11.3	31.3	28.9	62.8	59.2
記なし	N		1	10	5	10	4	11	1	3	0	3
	%		4.0	40.0	23.8	34.5	8.5	20.8	2.1	5.8		6.1
計	N		25	25	21	29	47	53	48	52	51	49
	%		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0



松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

れなかった。

8) 1週間のうちで大豆製品を使う頻度 (第6—8表)

(1) 全体からみると、週1~2日と3~4日とが最も多く、次いでほとんど毎日使うもの(22%)の順であった。また全く使わないものが1%みられた。

(2) 過疎地と市街地との間に差はみられなかったが、全く使わないものが、鳥取、鹿児島県の過疎地で使用頻度の高い傾向があった他は差がなかった。

9) 1週間のうちで脂肪を使う頻度 (第6—9表)

(1) 全体からみると、毎日使うものと、週に何回か使

うものがほとんどを占め、ほとんど使わないものは2.7%であった。

(2) 過疎地では市街地より脂肪の使用頻度がやや低い傾向にある。

7. 生活調査

1) 友達 (第7—1表)

友達なしとするものは、市街地に多く特に福岡県の市街地に目立つ(32.0%)。次いで新潟の市街地で29.0%である。しかし鳥取と鹿児島、とくに鹿児島では「な

第7—1表 友達の有無

項目	県名 と 地域 の数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
ない	N	12	11	16	29	16	8	10	16	54	64	118
	%	24.0	22.0	16.0	29.0	16.0	8.0	20.0	32.0	18.0	21.3	19.7
ある	N	38	37	84	71	84	92	37	32	243	232	475
	%	76.0	74.0	84.0	71.0	84.0	92.0	74.4	64.0	81.0	77.4	79.1
記なし	N		2					3	2	3	4	7
	%		4.0					6.0	4.0	1.0	1.3	1.2
計	N	50	50	50	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

遊び時間

島 県		福 岡 県				合 計				総 計		
市 街		過 疎		市 街		過 疎		市 街		過疎	市街	計
♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀			
0	0	0	0	0	0	1	1	6	10	2	16	18
						0.7	0.7	4.4	6.1	0.7	5.3	3.0
1	0	1	4	1	3	11	18	17	18	29	35	64
2.2		4.2	15.4	4.5	10.7	7.5	11.8	12.5	11.0	9.7	11.7	10.7
17	23	7	11	8	9	56	62	48	52	118	100	218
37.8	41.8	29.1	42.3	36.5	32.1	38.1	40.4	35.3	31.7	39.2	33.3	36.3
26	32	12	9	7	9	70	46	52	64	116	116	232
57.8	58.2	50.0	34.6	31.8	32.1	47.6	30.1	38.2	39.0	38.7	38.7	38.7
1	0	4	2	6	7	9	26	13	20	35	33	68
2.2		16.7	7.7	27.2	25.1	6.1	17.0	9.6	12.2	11.7	11.0	11.3
45	55	24	26	22	28	147	153	136	164	300	300	600
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第7-3表 戸内

項目	実数と% 地域別	鳥取県				新潟県				鹿児	
		過疎		市街		過疎		市街		過疎	
		♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
なし	N %										
1時間未満	N %	2 8.0	1 4.0	1 4.8	2 6.9	4 8.5	3 5.7	1 2.1	1 1.9	3 5.9	2 4.1
1-2時間	N %	7 28.0	8 32.0	5 23.8	7 24.1	13 27.7	18 34.0	9 18.8	12 23.1	26 51.0	13 26.5
3時間以上	N %	14 56.0	10 40.0	13 61.9	17 58.7	28 59.5	23 43.3	36 74.9	37 71.2	17 33.3	27 55.1
記なし	N %	2 8.0	6 24.0	2 9.5	3 10.3	2 4.3	9 17.0	2 4.2	2 3.8	5 9.8	7 14.3
計	N %	25 100.0	25 100.0	21 100.0	29 100.0	47 100.0	53 100.0	48 100.0	52 100.0	51 100.0	49 100.0

第7-4表 テレビを

項目	実数と% 地域別	鳥取県				新潟県				鹿児	
		過疎		市街		過疎		市街		過疎	
		♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
殆んど見ない	N %	1 4.0	1 4.0								
0.5時間以内	N %		1 4.0	2 9.5	1 3.4	3 6.4	2 3.8		1 1.9	3 5.9	7 14.3
0.5-1時間	N %	4 16.0	8 32.0		4 13.8	10 21.3	14 26.4	8 16.7	7 13.5	14 27.5	5 10.2
1-2時間	N %	8 32.0	7 28.0	4 19.0	6 20.7	15 31.9	21 39.6	15 31.3	15 28.9	19 37.2	11 22.4
2-3時間	N %	10 40.0	7 28.0	8 38.2	14 48.3	16 34.0	11 20.8	17 35.3	20 38.4	11 21.6	18 36.8
3時間以上	N %	2 8.0		7 33.3	4 13.8	3 6.4	5 9.4	8 16.7	9 17.3	4 7.8	8 16.3
記なし	N %		1 4.0								
計	N %	25 100.0	25 100.0	21 100.0	29 100.0	47 100.0	53 100.0	48 100.0	52 100.0	51 100.0	49 100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

の遊 び 時 間

島 県		福 岡 県				合 計				総 計		
市 街		過 疎		市 街		過 疎		市 街		過疎	市街	計
♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀			
		1	2			10	8	2	3	18	5	23
		4.2	7.7			6.8	5.2	1.5	1.8	6.0	1.7	3.8
20	16	8	7	9	6	54	46	43	41	100	84	184
44.4	29.1	33.3	26.9	40.9	21.4	36.7	30.1	31.6	25.0	33.3	28.0	30.7
23	38	14	14	7	13	73	74	79	105	147	184	331
51.2	69.1	58.3	53.9	31.8	46.5	49.7	48.4	58.1	64.1	49.0	61.3	55.2
2	1	1	3	6	9	10	25	12	15	35	27	62
4.4	1.8	4.2	11.5	27.3	32.1	6.8	16.3	8.8	9.1	11.7	9.0	10.3
45	55	24	26	22	28	147	153	136	164	300	300	600
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

見 る 時 間 (1日)

島 県		福 岡 県				合 計				総 計		
市 街		過 疎		市 街		過 疎		市 街		過疎	市街	計
♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀			
1		1	1	2	4	2	2	3	4	4	7	11
2.2		4.2	3.8	9.1	14.3	1.4	1.3	2.2	2.4	1.3	2.3	1.8
1		3	13	3	5	9	23	6	7	32	13	45
2.2		12.5	50.2	13.6	17.9	6.1	15.0	4.4	4.3	10.7	4.3	7.5
7	6	7	6	5	3	35	33	20	20	68	40	108
15.6	10.9	29.2	23.1	22.7	10.7	23.8	21.6	14.7	12.8	22.7	13.3	18.0
15	16	5	3	4	9	47	42	38	46	89	84	173
33.3	29.1	20.8	11.5	18.2	32.1	31.9	27.4	27.9	28.0	29.6	28.0	28.8
13	26	6	1	4	4	43	37	42	64	80	106	186
28.9	47.3	25.0	3.8	18.2	14.3	29.3	24.2	30.9	48.5	26.7	35.4	31.0
8	7		1	2	2	9	14	25	22	23	47	70
17.8	12.7		3.8	9.1	7.1	6.1	9.2	18.4	13.4	7.7	15.7	11.7
		2	1	2	1	2	2	2	1	4	3	7
		8.3	3.8	9.1	3.6	1.4	1.3	1.5	0.6	1.3	1.0	1.2
45	55	24	26	22	28	147	153	136	164	300	300	600
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

し」が過疎16.0%に対して市街8.0%とむしろ逆であるが、これは過疎現象が非常に進んだ状態で、地域から子供が姿を消した結果と考えられる。

子供のいる家と家の距離が遠くなったのでは、幼児がお互いに交流し続けることは不可能であろう。

2) 戸外での遊び時間 (第7-2表)

戸外での遊び時間は鹿児島県で、過疎、市街地とも3時間以上が60%前後なのに対して新潟県では30%前後である如く、積雪期間の長い地域と温暖な地域との差は非常に大きい。

また戸外の遊び時間は季節によっても差が出ることは言うまでもない。

過疎、市街地別にみると、ほぼ同じ傾向を呈するが、戸外での遊びがない小児が過疎地の0.7%に対し、市街は5.3%を示している点が注目される。また男女別にみると、市街地では男女の遊び時間は3時間以上が男38.2%、女39.0%とほぼ同じであるが、過疎地においては男47.6%、女30.1%と大きな差があるのが特徴であろう。

3) 戸内の遊び時間 (第7-3表)

全体からみると3時間以上が55.2%で最も多く、1~2時間が30.7%、1時間未満3.8%の順である(記なし10.3%)。過疎地、市街地を比べると、3時間以上は過疎

地49.0%、市街地61.3%と市街地の方が遊び時間が長い傾向があるが、これはおそらく家族全体の生活リズムと関係があり、市街地の家庭では幼児でも就寝時間が遅いので、戸内の遊び時間が長くなるものと思われる。県別でみると、新潟県の市街地が3時間以上のもの70%以上で著しく多い他は、ほぼ近い数字を示している。また男女の差は、鹿児島県の過疎地域で3時間以上のものが男33.3%、女55.1%と大きな差があったが、一般的に過疎地では男の子、市街地では女の子の方が戸内の遊び時間が長い傾向にある。

4) テレビを見る時間 (第7-4表)

全体からみると2~3時間31.0%、1~2時間28.8%で約60%が1~3時間位テレビを見ている。ほとんどテレビを見ないものは600例中11例(1.8%)に対して、3時間以上見るものは70例(11.7%)であった。

過疎地と市街地を比べると、市街地の方がかなりテレビを見る時間が長く、3時間以上のものが過疎地では7.7%に対し、市街地では15.7%と2倍に達していて、過疎地の子どもの生活時間の健全性を示しているといえよう。

県別では福岡県が他の3県に比べて著しく時間が短いが、男女差はあまりみられなかった。

第7-5表 着物の枚数(冬)

項目	実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
1枚	N %											
2枚	N %	6 12.0	2 4.0			7 7.0	3 3.0	3 6.0	1 2.0	16 5.3	6 2.0	22 3.7
3枚	N %	20 40.0	34 68.0	19 19.0	35 35.0	43 43.0	71 71.0	25 50.0	30 60.0	107 35.7	170 56.7	277 46.2
4枚	N %	18 36.0	12 24.0	58 58.0	59 59.0	39 39.0	24 24.0	21 42.0	17 34.0	136 45.3	112 37.3	248 41.3
5枚	N %	4 8.0		22 22.0	6 6.0	10 10.0	2 2.0	1 2.0	2 4.0	37 12.3	10 3.3	47 7.8
6枚以上	N %			1 1.0		1 1.0				2 0.7		2 0.3
記なし	N %	2 4.0	2 4.0							2 0.7	2 0.7	4 0.7
計	N %	50 100.0	50 100.0	100 100.0	100 100.0	100 100.0	100 100.0	50 100.0	50 100.0	300 100.0	300 100.0	600 100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

5) 着物の枚数 (第7-5表)

全体からみると3枚(46.2%)と4枚(41.3%)で大半を占めているが、地域別にみると、4枚以上と答えたものが市街地約40%に対し、過疎地約60%と、衣生活の差が表われている。この事は住居事情や、養育者の衛生思想の違いからくるものであろう。(過疎地では5枚以上が13%にもなる)

県別では新潟県で枚数が多いのは当然であろうが、鹿児島県の過疎地で厚着の傾向がある事が目立っている。

6) 日中の着物の種類 (第7-6表)

現在では、和服を子どもに着用させるケースはほとん

どなく、わずかに鹿児島市の市街地と福岡県の過疎地に1例ずつあるだけである。

7) 入浴 (第7-7表)

全体からみると毎日入浴するものが56.7%で最も多く、次いで週に数回(23.8%)、週に2~3回(14.5%)となっている。また過疎地の方が入浴回数は多く、県別では福岡が多く、鹿児島が少ない傾向である。

8) くしゃみや咳をしている時の処置 (第7-8表)

(1) 全体からみると、様子を見ていて、すぐには医師にかからないものが約半数を占め、「かぜぐすり」を飲ませるものがこれに次ぎ、すぐ医師にかかるものは21.0

第7-6表 日中着る着物の種類

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
和服	N						1		1		1	2
	%						1.0		2.0		0.3	0.3
洋服	N	50	49	99	100	100	99	49	50	298	298	596
	%	100.0	98.0	99.0	100.0	100.0	99.0	98.0	100.0	99.4	99.4	99.4
その他	N											
	%											
記なし	N		1	1						1	1	2
	%		2.0	1.0						0.3	0.3	0.3
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第7-7表 入浴回数(1週間)

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
毎日	N	37	21	63	50	49	40	41	39	190	150	340
	%	74.0	40.0	63.0	50.0	49.0	40.0	82.0	78.0	63.3	50.0	56.7
週に数回	N	6	11	23	24	42	26	5	6	76	67	143
	%	12.0	22.0	23.0	24.0	42.0	26.0	10.0	12.0	25.3	22.3	23.8
週に2-3回	N	4	10	11	22	7	27	2	4	24	63	87
	%	8.0	20.0	11.0	22.0	7.0	27.0	4.0	8.0	8.0	21.0	14.5
その他	N	1	6	3	3	2	7	2	1	8	17	25
	%	2.0	12.0	3.0	3.0	2.0	7.0	4.0	2.0	2.7	5.7	4.2
記なし	N	2	2		1					2	3	5
	%	4.0	4.0		1.0					0.7	1.0	0.8
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

%であった。

(2) 過疎地では、かせぐすりをのませると答えたものが多く、すぐに医師にかかるのは市街地に多い。

9) その時の入浴は？(第7-9表)

(1) 全体的には入浴はさせないとしたものが過半数を占め、入浴はさせると答えたものは、64.6%であった。

(2) 過疎地と市街地との間、及び県別にも差はみられなかった。

10) 保育所に通っているか？(第7-10表)

通っているものが鳥取や新潟の場合、市街地より多く、とくに新潟では過半数近くの子どもが保育所に通

ている。このことは過疎地における保育施設の充実ともとれるし、農業などで母親が働くケースが多いためとも考えられる。

### 8. 乳児期の栄養

1) 乳児期の栄養方法(4カ月)(第8-1表)

(1) 全体からみると、人工(41.3%)と最も多く、母乳(29.2%)と混合(29.5%)が同じ頻度であった。

(2) 過疎地では市街地より母乳栄養と混合栄養がやや多く、人工栄養が少し少ないようであるが、大差はない。

(3) この点では県による差が大きく、母乳は鹿児島県

第7-8表 くしゃみ、咳をしている時の処置

項目	県名		鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
	実数	%	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
すぐ医師にかかる	N		10	9	19	23	18	21	8	18	55	71	126
	%		20.0	18.0	19.0	23.0	18.0	21.0	16.0	36.0	18.3	23.7	21.0
かせ薬をのませる	N		9	6	39	14	21	13	1	2	70	35	105
	%		18.0	12.0	39.0	14.0	21.0	13.0	2.0	4.0	23.3	11.7	17.5
様子をみていて医師にかからない	N		26	30	35	50	57	60	35	25	153	165	318
	%		52.0	60.0	35.0	50.0	57.0	60.0	70.0	50.0	51.1	55.0	53.0
その他	N		4	5	5	12	4	6	3	5	16	28	44
	%		8.0	10.0	5.0	12.0	4.0	6.0	6.0	10.0	5.3	9.3	7.3
記なし	N		1	0	2	1	0	0	3	0	6	1	7
	%		2.0	0	2.0	1.0	0	0	6.0	0	2.0	0.3	1.2
計	N		50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第7-9表 7-8のときの入浴

項目	県名		鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
	実数	%	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
入浴はさせる	N		9	17	27	20	31	30	14	13	81	80	161
	%		18.0	34.0	27.0	20.0	31.0	30.0	28.0	26.0	27.0	26.7	26.8
入浴はさせない	N		32	27	66	70	62	61	33	35	193	193	386
	%		64.0	54.0	66.0	70.0	62.0	61.0	66.0	70.0	64.3	64.3	64.6
その他	N		5	3	5	8	7	7	3	0	20	18	38
	%		10.0	6.0	5.0	8.0	7.0	7.0	6.0	0	6.7	6.0	6.3
記なし	N		4	3	2	2	0	2	0	2	6	9	15
	%		8.0	6.0	2.0	2.2	0	2.0	0	4.0	2.0	3.0	2.5
計	N		50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第7-10表 保育所（幼稚園）

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
通っている	N	18	4	42	4	15	11	3	3	78	22	100
	%	36.0	8.0	42.0	4.0	15.0	11.0	6.0	6.0	26.0	7.3	16.7
自宅にいる	N	32	43	57	89	83	86	46	45	218	263	481
	%	64.0	86.0	57.0	89.0	83.0	86.0	92.0	90.0	72.7	87.7	80.1
その他	N	0	3	1	6	2	3	1	2	4	14	18
	%	0	6.0	1.0	6.0	2.0	3.0	2.0	4.0	1.3	4.7	3.0
記なし	N				1						1	1
	%				1.0						0.3	0.2
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第8-1表 赤ちゃん時代の栄養方法（4カ月）

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
母乳	N	18	11	15	17	48	42	13	11	94	81	175
	%	36.0	22.0	15.0	17.0	48.0	42.0	26.0	22.0	31.3	27.0	29.2
人工	N	19	23	52	53	29	33	14	25	114	134	248
	%	38.0	46.0	52.0	53.0	29.0	33.0	28.0	50.0	38.0	44.7	41.3
混合	N	13	16	33	30	23	25	23	14	92	85	177
	%	26.0	32.0	33.0	30.0	23.0	25.0	46.0	28.0	30.7	28.3	29.5
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第8-2表 母乳を止めた時期（昼間）

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
半年以内	N	19	13	25	31	25	35	19	8	88	87	175
	%	45.2	36.2	41.1	45.6	30.1	41.2	46.4	24.2	40.7	36.8	39.0
1歳まで	N	11	12	16	17	34	39	8	10	69	78	147
	%	26.2	33.3	26.2	25.0	41.0	45.9	19.5	30.3	28.2	33.6	32.7
2歳まで	N	2	8	8	10	10	8	1	1	21	27	48
	%	4.8	22.2	13.1	14.7	12.0	9.4	2.4	3.0	8.0	12.3	10.7
2歳以後	N	1		1	2					2	2	4
	%	2.4		1.6	2.9					1.0	0.7	0.9
記なし	N	9	3	11	8	14	3	13	14	47	28	75
	%	21.4	8.3	18.0	11.8	16.9	3.5	31.7	42.5	22.0	16.5	16.7
計	N	42	36	61	68	83	85	41	33	227	222	449
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第8-3表 母乳を止めた時期(夜間)

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
1歳まで	N	25	27	32	39	50	56	26	10	133	132	265
	%	59.5	75.0	52.4	57.3	60.2	65.9	63.4	30.3	58.5	59.4	59.1
2歳まで	N	5	3	14	13	12	24	3	3	34	43	77
	%	11.9	8.3	23.0	19.1	14.5	28.2	7.3	9.1	15.0	19.4	17.1
3歳まで	N	1	1	1	1					2	2	4
	%	2.4	2.8	1.6	1.5					0.9	0.9	0.9
3歳以後	N				1						1	1
	%				1.5						0.5	0.2
記なし	N	11	5	14	14	21	5	12	20	58	44	102
	%	26.2	13.9	23.0	20.6	25.3	5.9	29.3	60.6	25.6	19.8	22.7
計	N	42	36	61	68	83	85	41	33	227	222	449
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第8-4表 ミルクの名前

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
明治	N	19	29	38	32	19	15	19	10	95	86	181
	%	59.4	74.4	44.0	38.5	35.8	24.9	51.4	25.6	47.7	40.9	42.0
森永	N	3		28	16	17	12	4	2	52	30	82
	%	9.4		32.6	19.3	32.1	20.0	10.8	5.1	21.2	11.1	19.1
和光堂	N	1			9		1		3	1	13	14
	%	3.1			10.8		1.7		7.7	0.8	5.1	3.3
雪印	N			1	12	3	15	8	18	12	45	57
	%			1.2	14.5	5.7	25.0	21.6	46.2	7.1	21.4	13.3
SMA	N						1		1		2	2
	%						1.7		2.6		0.5	0.5
大豆乳	N											
牛乳	N											
山羊乳	N			1						1		1
	%			1.2						0.3		0.2
その他	N			1	1					1	1	2
	%			1.2	1.2					0.3	0.3	0.5
記なし	N	9	10	17	13	14	16	6	5	46	44	90
	%	28.1	25.6	19.8	15.7	26.4	26.7	16.2	12.8	23.8	20.2	21.1
計	N	32	39	86	83	53	60	37	39	208	221	429
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0



松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第8-5表 おかゆを始めた時期

項目	県名 実数と% 地域	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
3カ月以内	N	1	3	6	2	5	7	5	10	19	29	
	%	2.0	6.0	6.0	2.0	5.0	14.0	10.0	3.3	6.3	4.8	
4カ月	N	9	7	3	16	6	19	15	11	33	53	86
	%	18.0	14.0	3.0	16.0	6.0	19.0	30.0	22.0	11.0	17.7	14.3
5カ月	N	10	17	20	24	26	27	14	16	70	84	154
	%	20.0	34.0	20.0	24.0	26.0	27.0	28.0	32.0	23.3	28.0	25.7
6カ月	N	16	14	35	28	30	27	7	7	88	76	164
	%	32.0	28.0	35.0	28.0	30.0	27.0	14.0	14.0	29.3	25.3	27.4
7カ月以上	N	13	9	40	25	31	22	6	6	90	62	152
	%	26.0	18.0	40.0	25.0	31.0	22.0	12.0	12.0	30.1	20.7	25.3
記なし	N	1		2	1	5		1	5	9	6	15
	%	2.0		2.0	1.0	5.0		2.0	10.0	3.0	2.0	2.5
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第8-6表 3度の食事が確立した時期

項目	県名 実数と% 地域	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
8カ月	N		1	1	2	4	1	2	2	7	6	13
	%		2.0	1.0	2.0	4.0	1.0	4.0	4.0	2.3	2.0	2.2
9カ月	N	2	1	1			3	1	3	4	7	11
	%	4.0	2.0	2.0			3.0	2.0	6.0	1.3	2.3	1.8
10カ月	N	3	2	2	5	4	8	7	7	16	22	38
	%	6.0	4.0	2.0	5.0	4.0	8.0	14.0	14.0	5.3	7.3	6.3
11カ月	N		3	2	2	5	10	6	4	13	19	32
	%		6.0	2.0	2.0	5.0	10.0	12.0	8.0	4.3	6.3	5.3
12カ月	N	14	10	8	15	25	16	12	7	59	48	107
	%	28.0	20.0	8.0	15.0	25.0	16.0	24.0	14.0	19.7	16.0	17.8
1歳2カ月	N	17	18	21	20	23	23	10	10	71	71	142
	%	34.0	36.0	21.0	20.0	23.0	23.0	20.0	20.0	23.7	23.7	23.7
1歳6カ月	N	9	10	42	36	28	24	4	7	83	77	160
	%	18.0	20.0	42.0	36.0	28.0	24.0	8.0	14.0	27.7	25.7	26.7
1歳6カ月以上	N	3	3	20	20	9	15			32	38	70
	%	6.0	6.0	20.0	20.0	9.0	15.0			10.7	12.7	11.7
記なし	N	2	2	3		2		8	10	15	12	27
	%	4.0	4.0	3.0		2.0		16.0	20.0	5.0	4.0	4.5
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

の過疎、市街地ともに多く(48%, 42%), 新潟県ではともに著しく低い(15%, 17%)のが特徴であった、福岡、鳥取ではその中間値であった。

2) 断乳の時期(昼間)(第8-2表)

(1) 大部分ものは1才までに止めていて、(71.7%) 1才以後の断乳は11.6%であった。

(2) 過疎地、市街地ともに、同じ傾向であった。

3) 夜間の断乳の時期(第8-3表)

(1) 過疎地、市街地を問わず、1歳までに止めたものが過半数を占めている。1歳代までの断乳が76.2%であり、2歳以後も5例みられた。

4) 乳児期に与えたミルク名(第8-4表)

(1) 全体を通じて明治が多く、次いで森永、雪印、和光堂の順である。SMA、山羊乳はまれであった。牛乳例は全くなかった。

(2) 過疎地域と市街地の間には大きな差はみられなかった。

5) 離乳開始の時期(第8-5表)

(1) 5-6カ月が最も多いが、7カ月以後の開始も多い。

(2) 過疎地の離乳開始は市街地より遅いものが多い傾向があり、とくに鳥取、新潟、鹿児島各県に著しい。

第9-1表 子供の食事をつくる人

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
母	N	46	43	70	77	96	99	42	47	254	266	520
	%	92.0	86.0	70.0	77.0	96.0	99.0	84.0	94.0	84.7	88.7	86.0
祖母	N	4	6	27	19	2	1	8	2	41	28	69
	%	8.0	12.0	27.0	19.0	2.0	1.0	16.0	4.0	13.7	9.3	11.5
その他	N	0	1	0	1	1	0	0	1	1	3	4
	%		2.0		1.0	1.0			2.0	0.3	1.0	0.7
記なし	N	0	0	3	3	1	0	0	0	4	3	7
	%			3.0	3.0	1.0				1.3	1.0	1.2
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第9-2表 母親が子供の面倒をみる時間があるか

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
ない	N	1	0	2	1	1	1	1	1	5	3	8
	%	2.0		2.0	1.0	1.0	1.0	2.0	2.0	1.7	1.0	1.3
ほとんどない	N	6	11	30	17	10	10	6	2	52	40	92
	%	12.0	22.0	30.0	17.0	10.0	10.0	12.0	4.0	17.3	13.3	15.3
ある	N	28	24	56	53	57	56	19	28	160	161	321
	%	56.0	48.0	56.0	53.0	57.0	56.0	38.0	56.0	53.3	53.7	53.6
充分ある	N	15	15	12	28	32	33	22	19	81	95	176
	%	30.0	30.0	12.0	28.0	32.0	33.0	44.0	38.0	27.0	31.7	29.3
記なし	N	0	0	0	1	0	0	2	0	2	1	3
	%				1.0			4.0		0.7	0.3	0.5
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

6) 離乳完了の時期 (第8-6表)

(1) 12カ月～1歳半までの間が多く、過疎地、市街地の間に明らかな差はみられなかった。

全体からみると母親が圧倒的に多いのは当然であるが、過疎地では祖母が作る場合が比較的多い(13.7%)(市街地9.3%)。

9. こどもの生活

1) 子供の食事をおもに作る人 (第9-1表)

1) 母親が子供の面倒を見る時間 (第9-2表)

「ほとんどない」というものや、「全然ない」とするものが新潟、鳥取に多く、新潟の過疎の場合は約30%の母

第10-1表 排便、尿のしつづけを始めた時期

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
生後6～8カ月	N	8	10	4	2	13	13	9	12	34	37	71
	%	16.0	20.0	4.0	2.0	13.0	13.0	18.0	24.0	11.3	12.3	11.8
9～12カ月	N	8	14	18	17	23	32	22	13	71	76	147
	%	16.0	28.0	18.0	17.0	23.0	32.0	44.0	26.0	23.7	25.3	24.5
12カ月～1才6カ月	N	23	23	40	39	49	43	9	12	121	117	238
	%	46.0	46.0	40.0	39.0	49.0	43.0	18.0	24.0	40.3	39.0	39.7
1才6カ月以上	N	11	3	37	42	14	12	1	2	63	59	122
	%	22.0	6.0	37.0	42.0	14.0	12.0	2.0	4.0	21.0	19.7	20.3
記なし	N	0	0	1	0	1	0	9	11	11	11	22
	%			1.0		1.0		18.0	22.0	3.7	3.7	3.7
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第10-2表 昼間おむつがとれた時期

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
1才～1才6カ月	N	19	31	26	27	33	61	13	18	91	137	228
	%	38.0	62.0	26.0	27.0	33.0	61.0	26.0	36.0	30.3	45.7	38.1
1才7カ月～2才	N	19	12	39	45	30	34	17	13	105	104	209
	%	38.0	24.0	39.0	45.0	30.0	34.0	34.0	26.0	35.0	34.7	34.8
2才～2才6カ月	N	11	5	29	24	27	5	4	2	71	36	107
	%	22.0	10.0	29.0	24.0	27.0	5.0	8.0	4.0	23.7	12.0	17.8
2才6カ月～3才	N	0	2	4	4	10	0	0	0	14	6	20
	%		4.0	4.0	4.0	10.0				4.7	2.0	3.3
3才以上	N	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	%								2.0		0.3	0.2
記なし	N	1	0	2	0	0	0	16	16	19	16	35
	%	2.0		2.0				32.0	32.0	6.3	5.3	5.8
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

親がほとんどないと答えている。過疎地と市街地の差はほとんどみられなかった。「充分ある」と答えたものは、福岡県に多く、新潟県で少なかった。

3) 排泄

(1) しつけを始めた時期(第10-1表)

①全体からみると、12カ月～1歳6カ月が39.7%と最も多く、次いで9～12カ月(24.5%)、1歳6カ月以上(20.3%)、6～8カ月(11.8%)となっている。

②過疎地の方がしつけを始める時期は遅い傾向にある

が、大した差ではない。

③県別では過疎、市街地ともに新潟県で遅く福岡県で早い。1歳6カ月以上が新潟で(37%、42%)福岡で(2%、4%)という違いがあるが、これは、新潟における積雪期間の長い自然環境が反映しているものと思われる。

(2) 昼間おむつがとれた時期(第10-2表)

①全体からみると1歳～1歳6カ月が38.1%と最も多く、次いで1歳7カ月～2歳(34.8%)、2歳～2歳6

第10-3表 子供用便器を用意したか

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
はい	N	29	36	26	48	41	44	22	24	118	152	270
	%	58.0	72.0	26.0	48.0	41.0	44.0	44.0	48.0	39.3	50.7	45.0
いいえ	N	20	11	74	51	58	55	22	22	174	139	313
	%	40.0	22.0	74.0	51.0	58.0	55.0	44.0	44.0	58.0	46.3	52.2
記なし	N	1	3	0	1	1	1	6	4	8	9	17
	%	2.0	6.0		1.0	1.0	1.0	12.0	8.0	2.7	3.0	2.8
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第11表 子供の寝かせ方

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
親・祖母とは別	N	31	29	49	55	41	46	27	24	148	154	302
	%	62.0	58.0	49.0	55.0	41.0	46.0	54.0	48.0	49.4	51.3	50.4
ふとも一緒に	N	11	18	51	40	50	31	12	15	124	104	228
	%	22.0	36.0	51.0	40.0	50.0	31.0	24.0	30.0	41.3	34.7	38.0
小計	N	42	47	100	95	91	77	39	39	272	258	530
	%	84.0	94.0	100.0	95.0	91.0	77.0	78.0	78.0	90.7	86.0	88.4
他の子供と一緒に	N	5	0	0	3	2	8	0	1	7	12	19
	%	10.0			3.0	2.0	8.0		2.0	2.3	4.0	3.2
本人一人だけ	N	0	0	0	1	3	4	0	8	3	13	16
	%				1.0	3.0	4.0		16.0	1.0	4.3	2.6
小計	N	5	0	0	4	5	12	0	9	10	25	35
	%	10.0			4.0	5.0	12.0		18.0	3.3	8.3	5.8
記なし	N	3	3	0	1	4	11	11	2	18	17	35
	%	6.0	6.0		1.0	4.0	11.0	22.0	4.0	6.0	5.7	5.3
総計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

カ月(17.8%)の順である。2歳6カ月以後におむつがとれたこどもは600例中21例(3.5%)、3歳以後の1例もある。

②過疎地の方が市街地に比べて遅い傾向があり、例えば2歳までにおむつがとれたこどもは過疎地65.3%、市街地80.4%の如くである。

③県別にみると、排泄のしつけを始めた時期の遅い新潟県で当然おむつがとれる時期は遅くなっている他は、鹿児島県の過疎地で遅いのが目立っている。

(3) 小児用便器があるか?(第10—3表)

①全体からみると約半数が用意している。

②過疎地と市街地を比べると、用意しているもの市街地50.7%に対して過疎地39.3%と差がある。

③県別では鳥取県で「用意した」と答えたものが多

く、新潟の過疎で著しく少なかったが、これも排泄のしつけがおくれる原因の一つであろう。

4) 子どもの寝かせ方(第11表)

(1) 全体からみると88.4%が親子同室で、ふとんは別(50.4%)、ふとんも一緒(38.0%)となっていて、別の部屋で寝るこどもは5.8%だった。

(2) 過疎地と市街地を比べると、親子同室は差がないが、別の部屋で寝るものが300例中過疎10例(3.3%)に対して市街25例(8.3%)と差がある。

(3) 県別にみると、鹿児島では両地域とも別の部屋で寝る子どもがいるが、鳥取県では市街地、新潟県、福岡県では過疎地のこどもの100%が親と同じ部屋で寝ている。

第12—1表 常備されている家庭医薬品

項目	県名 地域 数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
体温計	N	50	50	95	99	93	99	48	50	286	298	584
	%	100.0	100.0	95.0	99.0	93.0	99.0	96.0	100.0	95.3	99.3	97.3
水枕	N	42	37	74	80	87	83	44	37	247	237	484
	%	84.0	74.0	74.0	80.0	87.0	83.0	88.0	74.0	82.3	79.0	80.7
薬	N	50	48	95	96	96	98	45	42	286	284	570
	%	100.0	96.0	95.0	96.0	96.0	98.0	90.0	84.0	95.3	94.7	95.0
記なし	N						1					1
	%						1.0					
風邪薬	N	33	29	80	67	56	56	29	23	198	175	373
	%	66.0	58.0	80.0	67.0	56.0	56.0	58.0	46.0	66.0	58.3	62.2
頭痛薬	N	21	21	46	50	47	46	23	17	137	134	271
	%	42.0	42.0	46.0	50.0	47.0	46.0	46.0	34.0	45.7	44.7	45.2
腹痛下痢止め	N	28	23	49	48	64	57	28	20	169	148	317
	%	56.0	46.0	49.0	48.0	64.0	57.0	56.0	40.0	56.3	49.3	52.8
赤チンなど	N	45	45	69	73	80	86	46	36	240	240	480
	%	90.0	90.0	69.0	73.0	80.0	86.0	92.0	72.0	80.0	80.0	80.0
外傷薬	N	42	43	63	78	71	81	42	29	218	231	449
	%	84.0	86.0	63.0	78.0	71.0	81.0	84.0	58.0	72.7	77.0	74.8
記なし	N	2	1	17	10	13	3	0	3	32	17	49
	%	4.0	2.0	17.0	10.0	13.0	3.0	6.0	10.7	5.7	8.2	
小計	N	171	120	324	326	331	329	168	128	994	903	1939
	%											

(注) 第12—1表は全て、例数の実数を母数とした%である。

10 母親の健康

1) 家庭の常備医薬品 (第12-1表)

- (1) 体温計は全地域を通じて最もよくゆきわたっている。
- (2) 氷枕も70~80%の家庭で所有している。
- (3) 薬品では、
  - ①赤チンキ、外傷薬などの所有率が高い。
  - ②かぜ、腹痛などの常備薬も約1/2の家庭もっている。またその保有率は過疎地の方がやや高い傾向にある。

2) 母親の心配ごと (第12-2表)

- (1) 心配をもつものは30~50%にのぼっている。

(2) その内容については記なしが多いが、記事の内容は、本人の健康と、こどもに関することが大半を占めていた。

3) 母親の健康状態 (第12-3表)

- (1) 全体からみると、「普通」が過半数を占めていて、次いで、「よい」(過疎26.0%, 市街30.0%), 「非常によい」(6.0%, 5.0%)の順であり、「悪い」ものが4.2%, 「非常に悪い」ものが0.3%とみられた。
- (2) 「悪い」ものは過疎地3.0%, 市街地5.3%と過疎地の方が少ない。

4) 母親の慢性疾患 (第12-4表)

- (1) 慢性疾患を持つものは全体で5.8%にみられ、市街地7.0%, 過疎地4.7%と市街地に多い。

第12-2表 主婦の現在の心配事

項目	県名		鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		計		総計
	実数	%	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
有	N		34	30	54	66	59	51	33	22	180	169	349
	%		68.0	60.0	54.0	66.0	59.0	51.0	66.0	44.0	60.0	56.3	58.2
無	N		16	20	46	34	41	49	17	28	120	131	251
	%		32.0	40.0	46.0	34.0	41.0	49.0	34.0	56.0	40.0	43.7	41.8
計	N		50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
あ	本人の事	N	8	7	20	14	20	14	5		53	35	88
		%	22.9	22.6	36.4	21.2	33.9	27.5	15.2		29.1	20.6	25.0
あ	夫の事	N											
		%											
あ	他の家族の事	N		1	2	2					2	3	5
		%		3.2	3.6	3.0					1.1	1.8	1.4
あ	子供の事	N	1	1	4		4	2	16	3	25	6	31
		%	2.9	3.2	7.3		6.8	3.9	48.5	13.6	13.7	3.5	8.8
あ	社会環境	N		1	2	1		6			2	8	10
		%		3.2	3.6	1.5		11.8			1.1	4.7	2.8
あ	その他	N	1	2					1	2	2	4	6
		%	2.9	6.5						3.0	9.1	1.1	2.4
あ	記なし	N	25	19	27	49	35	29	11	17	98	114	212
		%	71.3	61.3	49.1	74.3	59.3	56.8	33.3	77.3	53.9	67.0	60.3
あ	小計	N	35	31	55	66	59	51	33	22	182	170	352
		%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第12-3表 主婦の健康状態

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
非常に悪い	N	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	2
	%			1.0		1.0				0.7		0.3
悪い	N	2	2	4	9	2	4	1	1	9	16	25
	%	4.0	4.0	4.0	9.0	2.0	4.0	2.0	2.0	3.0	5.3	4.2
普通	N	27	26	78	62	62	66	26	24	193	178	371
	%	54.0	52.0	78.0	62.0	62.0	66.0	52.0	48.0	64.3	59.4	61.8
よい	N	16	19	15	24	25	23	22	24	78	90	168
	%	32.0	38.0	15.0	24.0	25.0	23.0	44.0	48.0	26.0	30.0	28.0
非常によい	N	5	3	2	5	10	7	1	0	18	15	33
	%	10.0	6.0	2.0	5.0	10.0	7.0	2.0		6.0	5.0	5.5
記なし	N	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	%								2.0		0.3	0.2
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第12-4表 主婦の慢性的な病気

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
あり	N	4	3	3	9	6	9	1	0	14	21	35
	%	8.0	6.0	3.0	9.0	6.0	9.0	2.0		4.7	7.0	5.8
なし	N	5	8	8	19	11	27	20	4	44	58	102
	%	10.0	16.0	8.0	19.0	11.0	27.0	40.0	8.0	14.7	19.3	17.0
記なし	N	41	39	89	72	83	64	29	46	242	221	463
	%	82.0	78.0	89.0	72.0	83.0	64.0	58.0	92.0	80.6	73.7	77.2
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第13-1表 普段利用している医療機関

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
私立診療所 (個人 開業医)	N	41	41	54	78	73	71	38	33	207	223	430
	%	82.0	82.0	54.0	78.0	73.0	71.0	76.0	66.0	69.0	74.3	71.7
公立診療所	N	2	1	7	2	6				15	3	18
	%	4.0	2.0	7.0	2.0	6.0				5.0	1.0	3.0
病院(公 立私立)	N	6	8	34	16	18	29	11	15	70	68	138
	%	12.0	16.0	34.0	16.0	18.0	29.0	22.0	30.0	23.3	22.7	23.0
その他	N											
	%											
記なし	N	1		5	4	3		1	2	8	6	14
	%	2.0		5.0	4.0	3.0		2.0	4.0	2.7	2.0	2.3
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第13-2表 医療機関の利用状態(こども)

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
0回	N			2	1	5		2	2	9	3	12
	%			2.0	1.0	5.0		4.0	4.0	3.0	1.0	2.0
1~2回	N	13	11	30	20	27	16	15	20	85	67	157
	%	26.0	22.0	30.0	20.0	27.0	16.0	30.0	40.0	28.3	22.3	25.3
3~5回	N	25	19	49	44	36	54	25	11	135	128	263
	%	50.0	38.0	49.0	44.0	36.0	54.0	50.0	22.0	45.0	42.6	43.8
6~10回	N	10	15	15	27	21	23	6	12	52	77	129
	%	20.0	30.0	15.0	27.0	21.0	23.0	12.0	24.0	17.3	25.7	21.5
11回以上	N	1	5	2	8	10	6	1	1	14	20	34
	%	2.0	10.0	2.0	8.0	10.0	6.0	2.0	2.0	4.7	6.7	5.7
記なし	N	1		2		1	1	1	4	5	5	10
	%	2.0		2.0		1.0	1.0	2.0	8.0	1.7	1.7	1.7
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0



松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第13—3表 医療機関の利用状況（母親）

項目	県名 地域 実数と %	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
0回	N	9	15	22	22	29	24	15	16	75	77	152
	%	18.0	30.0	22.0	22.0	29.0	24.0	30.0	32.0	25.0	25.7	25.3
1~2回	N	21	20	46	56	51	51	27	20	145	147	292
	%	42.0	40.0	46.0	56.0	51.0	51.0	54.0	40.0	48.3	49.0	48.7
3~5回	N	12	8	19	14	13	10	4	4	48	36	84
	%	24.0	16.0	19.0	14.0	13.0	10.0	8.0	8.0	16.0	12.0	14.0
6~10回	N	2	1	3	4	3	5			8	10	18
	%	4.0	2.0	3.0	4.0	3.0	5.0			2.7	3.3	3.0
11回以上	N	2		2	1	1	2	1		6	3	9
	%	4.0		2.0	1.0	1.0	2.0	2.0		2.0	1.0	1.5
記なし	N	4	6	8	3	3	8	3	10	18	27	45
	%	8.0	12.0	8.0	3.0	3.0	8.0	6.0	20.0	6.0	9.0	7.5
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

11. 医療機関調査

1) ふだん利用している医療機関（第13—1表）

(1) 私立診療所が71.7%と大半を占めていて、次は公、私立病院が23.0%で、公立診療所は3.0%と少なかった。

2) 医療機関の利用状況

(1) こどもの場合（第13—2表）

① 3~5回の利用が最も多く、ついで1~2回、6~10回の順である。

② 過疎地では市街地に比べて、医療機関の利用頻度は少ない傾向がある。

(2) 母親の場合（第13—3表）

① 年に1~2回以下が、次いで3~5回の利用があり、6回以上の利用は4.5%と少ない。また地域差はみられなかった。

3) 医療機関までの距離（第13—4表）

(1) 家からの距離は徒歩では10分以内、車では20分以内のものが大半を占めている。

(2) 過疎地は市街地よりも医療機関までの距離が遠い傾向にあり、徒歩で45分以上、車で1時間以上のものが数例あった。

4) 病人を運ぶ方法（第13—5表）

(1) 全体からみると、自動車を利用するものが過半数を占め、ついで徒歩であり、その他は少数であった。

(2) 一般に過疎地の方が自動車利用が多いが、これは、過疎地での自動車の重要性と普及によるものである。この傾向は特に新潟、鹿児島両県に於て著しかった。

5) 夜中の発病

(1) 「ある」と答えたものが過疎、市街とも32%みられた。

(2) その場合の内容（第13—6表）

発熱が56.7%、ひきつけが7.9%で、目立っている。過疎、市街、県別の差は、さほどなかった。

(3) その場合の処置（第13—7表）

両地区とも「医師のところへつれていく」ものが80~85%と大半を占め、「往診を頼む」ことは比較的少ない(10%)ようである。しかし往診依頼は過疎地15.1%に対し、市街地では4.4%にすぎなかった。

(4) その場合に運んだ場所（第13—8表）

両地域とも「私立の診療所へ運ぶ」ものが約半数を占め、ついで病院(約25%)の順であった。

(5) その場合の運び方（第13—9表）

両地域とも車が最もよく利用され、しいて言えば、過疎地の方が利用度が高く、これは医療的に不便な場所に

第13-4表 医療機関までの距離

項目	地名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計	
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街		
家 か ら の 距 離 (徒 歩)	10分以内	N 18 % 36.0	19 38.0	5 5.0	23 23.0	26 26.0	35 35.0	3 6.0	13 26.0	52 17.6	90 30.1	142 23.6	
	20分以内	N 1 % 2.0	2 4.0	1 1.0		2 2.0	6 6.0	2 4.0	2 4.0	6 1.7	10 3.3	16 2.7	
	30分以内	N %			1 1.0		2 2.0				3 1.0	3 0.5	
	45分以内	N %											
	1時間以内	N %					1 1.0		1 2.0		2 0.7		2 0.3
	記なし	N %								1 2.0		1 0.3	1 0.2
小計	N %	19 38.0	21 42.0	6 6.0	24 24.0	29 29.0	43 43.0	6 12.0	16 32.0	60 20.0	104 34.7	164 27.3	
家 か ら の 距 離 (車 で)	10分以内	N 19 % 38.0	21 42.0	32 32.0	56 56.0	52 52.0	44 44.0	31 62.0	26 52.0	134 44.7	147 49.1	281 46.6	
	20分以内	N 6 % 12.0	5 10.0	23 23.0	17 17.0	10 10.0	9 9.0	9 18.0	8 16.0	48 16.0	39 13.0	87 14.5	
	30分以内	N 5 % 10.0	1 2.0	13 13.0	2 2.0	2 2.0	1 1.0	4 8.0		24 8.0	4 1.3	28 4.7	
	45分以内	N %	2 4.0	13 13.0	1 1.0	5 5.0	1 1.0			18 6.0	4 1.3	22 3.7	
	1時間以内	N %			8 8.0		2 2.0	1 1.0		10 3.3	1 0.3	11 1.8	
	1.5時間以内	N 1 % 2.0		4 4.0						5 1.7		5 0.8	
	2時間以内	N %			1 1.0					1 0.3		1 0.2	
記なし	N %						1 1.0				1 0.3	1 0.2	
小計	N %	31 62.0	29 58.0	94 94.0	76 76.0	71 71.0	57 57.0	44 88.0	34 68.0	240 80.0	196 65.3	436 72.5	
計	N %	50 100.0	50 100.0	100 100.0	100 100.0	100 100.0	100 100.0	50 100.0	50 100.0	300 100.0	300 100.0	600 100.0	

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第13—5表 病人を運ぶ方法

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
自動車	N	25	25	87	67	66	57	39	41	217	190	407
	%	50.0	50.0	87.0	67.0	66.0	57.0	78.0	82.0	72.4	63.3	67.8
自転車	N		1		5		1			1	6	7
	%		2.0		5.0		1.0			0.3	2.0	1.2
徒歩	N	21	21	7	22	27	38	9	8	64	89	153
	%	42.0	42.0	7.0	22.0	27.0	38.0	18.0	16.0	21.3	29.7	25.5
その他	N	3	1	4	2	1	4	1		9	7	16
	%	3.0	2.0	4.0	2.0	1.0	4.0	2.0		3.0	2.3	2.7
記なし	N	1	2	2	4	5	1	1	1	9	8	17
	%	2.0	4.0	2.0	4.0	5.0	1.0	2.0	2.0	3.0	2.7	2.8
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

あるためであろう。

6) かかりつけの医師 (第13—10表)

(1) かかりつけの医師がいないものは過疎地で20.0%と市街地(5.7%)の3倍以上にも達している。とくに新潟で著しく、鳥取、鹿児島にこの傾向があり、福岡県では両地域に差がない。

(2) かかりつけの医師は、内科医、小児科医が大半を占めているが、外科、その他の医師にもかかっている。

とくに過疎地では、市街地に比べて小児科医にかかるものが少なく、外科、その他の医師にかかるものは3倍にも達している。これは過疎地に小児科専門医が少ないためと思われる。

12. 保健所

1) 健康診断を受けているか (第14—1表)

を受けているものが両地域とも過半数を占めるが

(1) とくに過疎地ではよく受けている(71.7%) (市街地61.4%)し

(2) 受けていないものも9%で市街地より少ない。

一般に過疎地の方が健康診断を受けようとする態度が強い。

2) 健康診断の種類 (第14—2表)

乳児検診の受診率が最も高く、(過疎89.3%, 市街82.7%) について妊婦検診(過疎70.3%, 市街63.3%) 3歳児検診(過疎59%, 市街62.7%)の順である。この傾

向は過疎地の方が著しい。

13. 助産施設

1) 出産場所 (第15—1表)

(1) 全体からみると病院分娩(41.7%)と個人病院での分娩(34.2%)が最も多い。しかし一方では自宅分娩が13.7%もみられる。母子健康センター(5.3%), や助産所(3.0%)の他、その他も0.3%みられた。

(2) 過疎地では病院の利用が最も多いが、自宅分娩が19.3%と、市街地(8.0%)の2倍以上にも達しているが、母子健康センターの利用率(6.3%)も市街地(4.3%)より多い傾向にあった。

(3) 県別では、自宅分娩は鹿児島県を除けば過疎地にのみ見られている。

2) 妊娠中の健康管理 (第15—2表)

(1) 管理を受けたものは過疎地と市街地の間にほとんど差がみられず、全体の97.2%に達している。

(2) 健康管理者 (第15—3表)

医師の管理が両地域とも最も多く(59.5%) 過疎地(53.4%)では市街地(67.2%)より少ない。その代り、過疎地では助産婦や保健婦に管理される%が、市街地に比べて約1.5倍にのぼる点も特徴の一つといえよう。

14. 今後の要望

母親と小児の心身の健康を考えた場合にどんな事を要

第13—6表 夜中の発病の状態

項目	県名 地域 災数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
発熱	N	9	11	12	14	24	20	13	5	58	50	108
	%	47.7	52.7	71.0	55.2	64.9	57.5	59.3	38.5	60.8	52.4	56.7
ひきつけ	N	1	3	1	3	4	2		1	6	9	15
	%	5.2	14.2	5.8	11.5	10.8	5.7		7.7	6.3	9.5	7.9
腹痛	N	1	1		1	3	1			4	3	7
	%	5.2	4.7		3.8	8.1	2.8			4.2	3.2	3.7
はしか	N						2				2	2
	%						5.7				2.1	1.1
かぜ	N			1			3	3		4	3	7
	%			5.8			8.5	13.6		4.2	3.2	3.7
呼吸困難	N					1	2			1	2	3
	%					2.7	5.7			1.1	2.1	1.6
肺炎	N	1								1		1
	%	5.2								1.1		0.5
腸炎	N					1				1		1
	%					2.7				1.1		0.5
中耳炎	N	1					1			1	1	2
	%	5.2					2.8			1.1	1.1	1.1
吐気	N				1	1				1	1	2
	%				3.8	2.7				1.1	1.1	1.1
夜泣き	N			1	2			1	1	2	3	5
	%			5.8	7.6			4.5	7.7	2.1	3.2	2.6
火傷	N		1					1		1	1	2
	%		4.7					4.5		1.1	1.1	1.1
その他	N		1	1	1		3		1	1	6	7
	%		4.7	5.8	3.8		8.5		7.7	1.1	6.3	3.7
記なし	N	6	4	1	4	3	1	4	5	14	14	28
	%	31.5	19.0	5.8	15.3	8.1	2.8	18.1	38.4	14.7	14.7	14.7
計	N	19	21	17	26	37	35	22	13	95	95	190
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第13—7表 夜中の発病の際の処置

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
医師の往診を頼んだ	N %	4 19.0		1 8.3	1 6.7	2 10.5	1 5.0	4 19.0	1 7.7	11 15.1	3 4.4	14 10.0
医師のもとにつれていった	N %	17 81.0	20 10.0	10 83.4	10 66.6	16 84.2	17 85.0	15 71.5	11 84.6	58 79.4	58 85.3	116 82.2
記なし	N %			1 8.3	4 26.7	1 5.3	2 10.0	2 9.5	1 7.7	4 5.5	7 10.3	11 7.8
計	N %	21 100.0	20 100.0	12 100.0	15 100.0	19 100.0	20 100.0	21 100.0	13 100.0	73 100.0	68 100.0	141 100.0

第13—8表 夜中の発病の際、運んだ場所

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
私立診療所	N %	12 57.2	12 60.0	6 37.5	12 42.8	15 40.6	18 64.3	9 42.9	6 46.1	42 44.2	48 54.0	90 49.0
公立診療所	N %					1 2.7				1 1.1		1 0.5
病院	N %	4 19.0	6 30.0	7 43.7	4 14.3	11 29.7	9 32.1	3 14.3	2 15.4	25 26.2	21 24.0	46 25.0
その他	N %	1 4.8		1 6.3	1 3.6			5 23.8		7 7.4	1 1.1	8 4.3
記なし	N %	4 19.0	2 10.0	2 12.5	11 39.3	10 27.0	1 3.6	4 19.0	5 38.5	20 21.1	19 21.3	39 21.2
計	N %	21 100.0	20 100.0	16 100.0	28 100.0	37 100.0	28 100.0	21 100.0	13 100.0	95 100.0	89 100.0	184 100.0

第13—9表 夜中の発病の際の運び方

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
車	N %	25 50.0	25 50.0	87 87.0	67 67.0	66 66.0	57 57.0	39 78.0	41 82.0	217 72.0	190 63.3	407 67.8
自転車	N %		1 2.0		5 5.0	1 1.0				1 0.7	6 2.0	7 1.2
徒歩	N %	21 42.0	21 42.0	7 7.0	22 22.0	27 27.0	38 38.0	9 18.0	8 16.0	64 21.3	89 29.7	153 25.5
その他	N %	3 6.0	1 2.0	4 4.0	2 2.0	1 1.0	4 4.0	1 2.0		9 3.0	7 2.3	16 2.7
記なし	N %	1 2.0	2 4.0	2 2.0	4 4.0	5 5.0	1 1.0	1 2.0	1 2.0	9 3.0	8 2.7	17 2.8
計	N %	50 100.0	50 100.0	100 100.0	100 100.0	100 100.0	100 100.0	50 100.0	50 100.0	300 100.0	300 100.0	600 100.0

第13—10表 かかりつけの医師の有無とその医科の専門

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
いない	N	6	3	40	5	11	6	3	3	60	17	77
	%	12.0	6.0	40.0	5.0	11.0	6.0	6.0	6.0	20.0	5.7	12.8
いる	N	44	47	60	95	89	94	47	47	240	283	523
	%	88.0	94.0	60.0	95.0	89.0	94.0	94.0	94.0	80.0	94.3	87.2
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
小児科	N	18	31	21	53	37	55	17	24	93	163	256
	%	38.2	50.0	30.8	42.7	33.3	45.1	32.1	48.0	33.3	46.8	40.8
内科	N	14	19	31	41	41	49	20	14	106	123	229
	%	29.8	30.6	45.7	33.1	36.9	40.2	37.7	28.0	38.0	35.3	36.5
外科	N	4		6	2	4	4	2		16	6	22
	%	8.5		8.8	1.6	3.6	3.3	3.8		5.7	1.7	3.5
その他	N	2	1	6	3	15	7	2		25	11	36
	%	4.3	1.6	8.8	2.4	13.5	5.7	3.8		9.0	3.3	5.7
記なし	N	9	11	4	15	14	7	12	12	39	45	84
	%	19.2	17.8	5.9	20.2	12.7	5.7	22.6	24.0	14.0	12.9	13.4
計	N	47	62	68	124	111	122	53	50	279	348	627
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第14—1表 健康診断を受けているか

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
うけている	N	31	14	82	63	67	79	35	28	215	184	399
	%	62.0	28.0	82.0	63.0	67.0	79.0	70.0	56.0	71.7	61.4	64.5
うけていない	N	8	13	9	14	9	6	2	4	28	37	65
	%	16.0	26.0	9.0	14.0	9.0	6.0	4.0	8.0	9.3	12.3	10.8
ときどきする	N	11	22	9	20	24	15	7	18	51	75	126
	%	22.0	44.0	9.0	20.0	24.0	15.0	14.0	36.0	17.0	25.0	21.0
記なし	N		1		3			6		6	4	10
	%		2.0		3.0			12.0		2.0	1.3	1.7
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第14—2表 健康診断の種類（%は実例数を母数にした）

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
妊婦検診	N	25	23	67	49	77	83	42	35	211	190	401
	%	50.0	46.0	67.0	49.0	77.0	83.0	84.0	70.0	70.3	63.3	66.8
乳児検診	N	38	31	91	84	92	91	47	42	268	248	516
	%	76.0	61.0	91.0	84.0	92.0	91.0	94.0	84.0	89.3	82.7	86.0
3才児検診	N	40	13	68	83	52	84	17	8	177	188	365
	%	80.0	26.0	68.0	83.0	52.0	84.0	34.0	16.0	59.0	62.7	60.8
記なし	N	4	9	1	6				4	5	19	24
	%	8.0	18.0	1.0	6.0				8.0	1.7	6.3	4.0
計	延べ実数	107	76	227	222	221	258	106	89	661	647	306
	実例数	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600

第15—1表 子供を出産した場所

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
自宅	N	1		26		20	24	11		58	24	82
	%	2.0		26.0		20.0	24.0	22.0		19.3	8.0	13.7
母子健康センター	N	14	1		9	2	3	3		19	13	32
	%	28.0	2.0		9.0	2.0	3.0	6.0		6.3	4.3	5.3
病院	N	15	28	60	53	36	27	14	17	125	125	250
	%	30.0	56.0	60.0	53.0	36.0	27.0	28.0	34.0	41.8	41.8	41.7
個人病院	N	19	18	11	35	36	38	19	29	85	120	205
	%	38.0	36.0	11.0	35.0	36.0	38.0	38.0	58.0	28.3	40.0	34.2
助産所	N	1	2			5	5	2	3	8	10	18
	%	2.0	4.0			5.0	5.0	4.0	6.0	2.7	3.3	3.0
その他	N		1	1						1	1	2
	%		2.0	1.0						0.3	0.3	0.3
記なし	N			2	3	1	3	1	1	4	7	11
	%			2.0	3.0	1.0	3.0	2.0	2.0	1.3	2.3	1.8
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第15-2表 妊娠中健康管理を受けたか

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
うけた	N	49	44	99	94	100	98	47	48	295	288	583
	%	98.0	96.0	99.0	94.0	100.0	98.0	94.0	96.0	98.3	96.0	97.2
うけない	N		2	1	6		2	1	2	2	12	14
	%		4.0	1.0	6.0		2.0	2.0	4.0	0.7	4.0	2.3
記なし	N	1						2		3		3
	%	2.0						4.0		1.0		0.5
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第15-3表 妊娠中の健康管理者

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
助産婦	N	12	5	33	21	36	18	23	10	104	54	158
	%	18.2	8.3	24.3	17.8	24.2	15.1	25.8	17.5	23.6	15.3	19.9
保健婦	N	19	14	27	11	33	22	19	9	98	56	154
	%	28.8	23.3	19.9	9.3	22.1	18.5	21.3	15.8	22.3	15.8	19.4
医師	N	34	40	76	81	80	79	45	38	235	238	473
	%	51.5	66.7	55.8	68.7	53.7	66.4	50.7	66.7	53.4	67.2	59.5
その他	N		1		1			1		1	2	3
	%		1.7		0.8			1.1		0.2	0.6	0.4
記なし	N	1			4			1		2	4	6
	%	1.5			3.4			1.1		0.5	1.1	0.8
計	N	66	60	136	118	149	119	89	57	440	354	794
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

望するかを調査した。

1) 医療機関への要望 施設(第16-1表)

(1) 全体からみると、総合病院を近くにほしいというものが全体の半を占め、次いで救急車などの救急体制の整備(19.5%)、助産施設の増設(13.9%)、診療所を町村ごとに設置(11.2%)の順である。

過疎地では総合病院の設立要望(39.0%)が市街地(31.9%)より多く、この声は診療所設置の希望にも強くあらわれている。

(2) 何科の医師がほしいか(第16-2表)

①全体からみると小児科医を望むものが34.8%と最も

多く、次いで歯科医(21.1%)、眼科医(10.1%)、耳鼻科医(9.9%)、内科医(7.3%)などの順であった。

② 過疎地においてもこの傾向は同じであるが、特に眼科、耳鼻科、産科医への要望は、市街地より強かった。

2) 保健所への要望

(第16-3表)にまとめたが、総括すると、地域住民の生活環境と健康を守るふさわしい、人的、物的条件の充実と、保健所、住民間の機能的な連絡方法の確立を希望するものが多くみられている。

3) 家庭生活についての意見



松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第16-1表 医療機関への要望

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
総合病院 を近くに つくる	N %	15 28.9	2 4.0	23 20.7	26 25.1	60 56.1	51 50.5	33 50.0	19 37.2	131 39.0	98 31.9	229 35.6
医院、診 療所を村 町に作る	N %	4 7.7	2 4.0	42 37.9	12 11.5	3 2.8	6 5.9	2 3.0	1 2.0	51 15.2	21 6.9	72 11.2
助産施設 を村・町 につくる	N %	6 11.5	5 10.0	19 17.1	12 11.5	16 15.0	9 8.9	6 9.1	16 31.4	47 14.0	42 13.7	89 13.9
救急車な どの救急 体制の整 備	N %	10 19.2	6 12.0	18 16.2	25 24.0	20 18.7	22 21.8	19 28.8	5 9.8	67 19.9	58 19.0	125 19.5
その他	N %	4 7.7	4 8.0	3 2.7	7 6.7	1 0.9	3 3.0	0	0	8 2.4	14 4.6	22 3.4
記なし	N %	13 25.0	31 62.0	6 5.4	22 21.2	7 6.5	10 9.9	6 9.1	10 19.6	32 9.5	73 23.9	105 16.4
計	N %	52 100.0	50 100.0	111 100.0	104 100.0	107 100.0	101 100.0	66 100.0	51 100.0	336 100.0	306 100.0	642 100.0

第16-2表 現在、何科の医師が最も欲しいか

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
外科	N %	3 5.2	1 1.6	5 3.8	3 2.7	2 1.6	1 1.1			10 2.5	5 1.6	15 2.1
内科	N %	4 6.9	3 4.8	21 16.2	10 9.0	4 3.2	7 8.0	1 1.2	2 3.7	30 7.6	22 7.0	52 7.3
小児科	N %	21 36.2	23 37.2	47 36.3	28 25.2	49 39.2	38 44.0	18 21.7	23 42.5	135 34.1	112 35.6	247 34.8
耳鼻咽喉 科	N %	4 6.9	3 4.8	5 3.8	6 5.4	19 15.2	10 11.5	18 21.7	5 9.3	46 11.6	24 7.6	70 9.9
産科	N %	1 1.7	0	5 3.8	2 1.8	5 4.0	1 1.1	14 16.9		25 6.3	3 1.0	28 4.0
眼科	N %	8 13.8	2 3.2	6 4.6	9 8.1	15 12.0	5 5.7	22 26.5	5 9.3	51 12.9	21 6.7	72 10.1
歯科	N %	11 19.0	18 29.0	36 27.7	28 25.2	26 20.8	19 21.8	2 2.4	10 18.5	75 18.9	75 23.9	150 21.1
その他	N %	1 1.7	0	2 1.5	3 2.7	2 1.6	1 1.1			5 1.3	4 1.3	9 1.3
記なし	N %	5 8.7	12 19.4	3 2.3	22 19.9	3 2.4	5 5.7	8 9.6	9 16.7	19 4.8	48 15.3	67 9.4
計	N %	58 100.0	62 100.0	130 100.0	111 100.0	125 100.0	87 100.0	83 100.0	54 100.0	396 100.0	314 100.0	710 100.0

第16-3表 保健所に対する要望

県名	市 街 地	件数	過 疎 地	件数
新潟県	保健所の仕事内容の広報をしてほしい	1	医療機関を新設してほしい	1
	定期検診の増強をしてほしい	1	子供の遊び場を作ってほしい	1
	日曜、祭日の検診もやってほしい	1	母子栄養強化制度の徹底化をしてほしい	1
	保健所の増設を望む	1	救急体制を考えてほしい	1
鳥取県	定期検診を増強してほしい	1	3才を過ぎてからの検診もしてほしい	1
	予防接種センターを設置してほしい	1	健康診断を実施してほしい	1
	野犬の保護をしてほしい	1		
	幼児の栄養指導をしてほしい	1		
	健康優良児の検査と認定をしてほしい	1		
	救急体制の整備をしてほしい	1		
	授業前の十分な検査をしてほしい	1		
歯科の増設を望む	1			
鹿児島県	常時予防接種の受けられる体制と通知の徹底化	3	川の汚染の調査をしてほしい	1
	定期検診の増強をしてほしい(ガン検診、母子検診、歯科検診)	4	食品に含まれる有害物質についての調査とそれに対するきびしい態度	1
	健康相談室を設置してほしい(婦人科など)	2	保健所を近くに作ってほしい	1
	住所変更後の通知の徹底化をしてほしい	1	保健所の家庭訪問をしてほしい	1
	日曜、祭日の当番医を増してほしい	1	健康検診をしてほしい(歯科、内科)	1
	電話による親切的な相談もしてほしい	1	乳児ベッドの設備をしてほしい	1
福岡県	保健所による指導の徹底化を望む(人員の不足)	2	予防接種の予備日をふやしてほしい	1
	定期的な検診をしてほしい	1	保健所を近くに作ってほしい	1
	予防接種の通知と常に受けられる体制をとってほしい	2	食品売場の衛生管理を徹底してもらいたい	1

第16-4表 こどもの健康を守るうえで現在最も望まれること

県名	市 街 地	件数	過 疎 地	件数
新潟県	夜間通院可能な病院を設置してほしい	1	栄養についての指導と規則正しい生活のできる環境	1
	緑地帯の整備をしてほしい	1	遊び場所、冬の日光を確保するようにしたい	1
	交通安全	1	定期検診を行なってほしい	1
鳥取県	公害をなくしてほしい	1	バランスのとれた栄養	1
	公園の整備	1	遊び場を確保したい	1
	道路を整備してほしい 生活を安定させること	1		
鹿児島県	公園を作ってほしい	1	子供の遊び場所がほしい	3
	日照を確保すること	1	交通事故から守ってほしい	1
	定期検診をしてほしい	1	栄養に注意したい	2
	病院を設置してほしい(小児科など)	2	食品公害がなくなること	1
	公害をなくすること	1	過保護にならないようにしたい	1
			規則正しい生活をさせる 急病の時すぐ来てくれる医師がほしい	1
福岡県	生活環境を保護してほしい	1	公害問題を解決してほしい	2
	公園を設置してほしい	1	乳製品の負担を軽減してほしい	1
	保育所の人員の確保	1	有害食品添加物をなくすること	1
			遊び場所がほしい	1
			環境の整備と改善 子供の世話をする人がほしい	2

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第16—5表 主婦の健康を守るうえで現在最も望まれることは何ですか

県名	市 街 地	件数	過 疎 地	件数
新潟県	体育施設を設置してほしい 定期検診（成人病など）	1	無理をしないで休養をとること	3
		2	主婦のための自由な時間がほしい	1
			栄養に注意すること	1
			定期的な検診をしてほしい	1
鳥取県	体育施設を設置してほしい 社会不安をなくすること 公園を新設してほしい	2	栄養に注意すること	1
		1	規則正しい生活をする	1
		1	十分な睡眠時間がほしい	1
			健康診断をしてほしい	1
鹿児島県	有給育児休暇体制を実施してほしい 分娩費を軽減してほしい 主婦同志の組織的な活動があればよい 体育施設を作ってほしい	2	過労をしないように（十分な睡眠など）	2
		1	栄養に注意すること	1
		1	適度の運動をするように心がけたい	1
		1	主婦のための自由時間がほしい	1
		1	食品公害をなくしてほしい	1
		1	健康精密検査がどこでもできるようにしてほしい	1
福岡県	婦人科の増設をしてほしい 育児相談所を作ってほしい 健康診断をしてほしい 体育施設の設置	1	緑地帯の整備をしてほしい	2
		1	自由な時間がほしい	1
		1	十分な睡眠がとれるようにしたい	1
		1	適度な運動が必要である	1

第16—6表 家庭生活について(3)子どもを育てるうえでのなやみ

県名	市 街 地	件数	過 疎 地	件数
新潟県	定期検診を徹底的にしてほしい	1	子供と一緒に時間が少ない	2
			友達がいない	1
			姑と僕の点で意見があわない	1
			生活が不規則	1
			養女であることが心配	1
鳥取県	3才保育の必要性を感じている 母親の健康の維持について 僕の問題で悩んでいる 子供の健康管理がうまくいっているかどうか 転勤の問題で困っている 育児時間が足りない	1	僕の問題（祖母と意見がくい違うなど）	3
		1		
		1		
		1		
		1		
		1		
鹿児島県	保育費が多くかかるので困る 育児時間が少なく接触が少ない事 発育が遅い（身体・言語面など） 遊び場がない 日曜・祭日の医師の検診	1	僕の問題	1
		1	遊び場がない	1
		2	子供と十分に話し合えない	1
		1	友達がいない	1
		1		
福岡県	特殊学級を増してほしい 予防注射が公共施設で接種できるようにしてほしい	1	僕の問題	1
		1	情報（T・V）などが多すぎて子供によい影響を与えない	1
			偏食がある	1
			子供が病弱であること	1
			遊び場がほしい	1
	保育所の設置	2		

(1) 小児の健康を守るための要望 (第16-4表)

公園などの子どもの遊び場と、事故防止など健全育成部門の願望と、公害防止、医療機関の充実を望む声が多い。

(2) 主婦の健康を守るための要望 (第16-5表)

過疎地では過労に陥っている母親が多いので、充分の休養と栄養及び教養を高めるための自由時間を望む声が強かった。

また定期的な健康診査を望んでいる。

(3) 育児上の悩み (第16-6表)

①複合家族による悩み、とくに祖母と母親とのしつけ

の相違が最も深刻な訴えであった。

②次いで小児の健康増進のための条件、友達がいな  
い、遊び場がないことを訴えていて、そのための保育所  
の設置を望む声が強い。

15. 父母の小児に対する希望

1) こどもの将来の職業 (第17-1表)

(1) 全体でみると、

①「まだ考えていない」が25.5%、「わからない」が  
13.3%であり、記なしを加えると、未定のものが51.5%  
にのぼるのは当然かもしれない。

第17-1表 従来子供をどんな仕事に従事させたいか

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
本人の希望 どうり	N	10	13	15	25	25	33	29	7	79	78	157
	%	20.0	26.0	15.0	25.0	25.0	33.0	53.0	14.0	26.3	26.0	26.1
サラリー マン (OL)	N	3	2	2	6	4	1			9	9	18
	%	6.0	4.0	2.0	6.0	4.0	1.0			3.0	3.0	3.0
事務員	N			6	5	11	10			17	15	32
	%			6.0	5.0	11.0	10.0			5.7	5.0	5.3
手に職を (専門家)	N	2	1	7	4	7	6	1	9	17	20	37
	%	4.0	2.0	7.0	4.0	7.0	6.0	2.0	18.0	5.7	6.7	6.2
商 業	N			1						1		1
	%			1.0						0.3		0.2
家業をつ がせる	N	1	2		2	1		1		3	4	7
	%	2.0	4.0		2.0	1.0		2.0		1.0	1.3	1.2
農 業	N	2		2	2	1		1		6	2	8
	%	4.0		2.0	2.0	1.0		2.0		2.0	0.7	1.3
親子で相 談して	N			1						1		1
	%			1.0						0.3		0.2
わから ない	N	5	5	23	15	9	8	8	7	45	35	80
	%	10.0	10.0	23.0	15.0	9.0	8.0	16.0	14.0	15.0	11.7	13.3
考えてい ない	N	11	17	29	16	26	37	2	15	68	85	153
	%	22.0	34.0	29.0	16.0	26.0	37.0	4.0	30.0	22.7	28.3	25.5
その 他	N	4	5	1	4	9	5	1	1	15	15	30
	%	8.0	10.0	1.0	4.0	9.0	5.0	2.0	2.0	5.0	5.0	5.0
記なし	N	12	5	13	21	7		7	11	39	37	76
	%	24.0	10.0	13.0	21.0	7.0		14.0	22.0	13.0	12.3	12.7
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

松島他：過疎地域の母子保健の調査研究

第17-2表 子供に家業をつがせたいか

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
はい	N	5	5	7	9	4	2	5	1	21	17	38
	%	10.0	10.0	7.0	9.0	4.0	2.0	10.0	2.0	7.0	5.7	6.3
いいえ	N	16	27	41	28	51	60	28	21	136	136	272
	%	32.0	54.0	41.0	28.0	51.0	60.0	56.0	42.0	45.3	45.3	45.4
どちらとも いえない	N	27	14	52	55	42	38	14	25	135	132	267
	%	54.0	28.0	52.0	55.0	42.0	38.0	28.0	50.0	45.0	44.0	44.5
記なし	N	2	4		8	3		3	3	8	15	23
	%	4.0	8.0		8.0	3.0		6.0	6.0	2.7	5.0	3.8
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第17-3表 今の住所にずっと住みたいか

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
はい	N	32	19	49	41	46	26	23	18	150	104	254
	%	64.0	38.0	49.0	41.0	46.0	26.0	56.0	36.0	50.0	34.6	42.3
いいえ	N	5	15	14	24	29	50	10	12	58	101	159
	%	10.0	30.0	14.0	24.0	29.0	50.0	20.0	24.0	19.3	33.7	26.5
どちらとも いえない	N	12	15	37	33	25	24	15	20	89	92	181
	%	24.0	30.0	37.0	33.0	25.0	24.0	30.0	40.0	29.7	30.7	30.2
記なし	N	1	1		2			2		3	3	6
	%	2.0	2.0		2.0			4.0		1.0	1.0	1.0
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第17-4表 今の住いの環境は子供にとって望ましいか

項目	県名 地域 実数と%	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
思う	N	32	25	60	72	66	70	27	36	185	203	388
	%	64.0	50.0	60.0	72.0	66.0	70.0	54.0	72.0	61.7	67.6	64.7
思わない	N	16	23	37	25	34	30	22	14	109	92	201
	%	32.0	46.0	37.0	25.0	34.0	30.0	44.0	28.0	36.3	30.7	33.5
どちらとも いえない	N	2	2	3	3			1		6	5	11
	%	4.0	4.0	3.0	3.0			2.0		2.0	1.7	1.8
計	N	50	50	100	100	100	100	50	50	300	300	600
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第17-5表 環境の問題点

項目	地名 地域 実数と %	鳥取県		新潟県		鹿児島県		福岡県		合計		総計
		過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	過疎	市街	
辺鄙な所に家がある	N %	2 14.3	1 5.0	5 21.7		1 3.0		2 12.5	1 7.7	10 11.6	2 2.4	12 7.1
子供が外に遊びに行きたい	N %		1 5.0		2 8.3		1 3.8		1 7.7		5 6.0	5 3.0
公園が近くにない	N %	2 14.3	4 20.0	1 4.3	5 20.8	5 15.2	3 11.5	2 12.5	2 15.4	10 11.6	14 16.9	24 14.2
家がせまい又は広すぎる	N %	1 7.1	5 25.0	5 21.7	2 8.3	5 15.2	9 34.6	2 12.5	4 30.7	13 15.1	20 24.2	33 19.5
交通がはげしい	N %	4 28.7	2 10.0	2 8.7	6 25.1	11 33.3	3 11.5	3 18.7	1 7.7	20 23.4	12 14.5	32 18.9
友達が少ない、少ない	N %	1 7.1	1 5.0		2 8.3	2 6.1	2 7.7	2 12.5	2 15.4	5 5.8	7 8.4	12 7.1
日当りがわるい、湿気が多い	N %	1 7.1	1 5.0			2 6.1	3 11.5			3 3.5	4 4.8	7 4.1
家が密集している	N %		2 10.0		1 4.2						3 3.6	3 1.8
公害(騒音など)	N %		2 10.0		4 16.7	1 3.0		1 6.3		2 2.3	6 7.2	8 4.7
家業のため子供の面倒をみれない	N %			1 4.3		1 3.0			1 7.7	2 2.3	1 1.2	3 1.8
周囲がよくない(風俗営業など)	N %		1 5.0		2 8.3						3 3.6	3 1.8
家族関係がわるい	N %			1 4.3		1 3.0	3 11.5	1 6.5		3 3.5	3 3.6	6 3.6
その他	N %	3 21.4		8 35.0		4 12.1	2 7.7	3 18.7	1 7.7	18 20.9	3 3.6	21 12.4
計	N %	14 100.0	20 100.0	23 100.0	24 100.0	33 100.0	26 100.0	16 100.0	13 100.0	86 100.0	83 100.0	169 100.0

②希望があるうちでは、「本人の希望通り」が26.1%と最も多く、「家業を継がせる」ものは1.2%で農業1.3%、商業0.2%を加えても2.7%にすぎなかった。これらに関して、過疎地、市街地の間には差がみられなかった。

2) こどもに家業を継がせたいか(第17-2表) はっきり「はい」と答えたものは6.3%にすぎず、「いえ」か、「どちらともいえない」と答えたものが90%を占めている。

この点について、両地域の間には差はなかった。一般的

に戦前のように、我が子に家業を継がせるという慣習はみられなくなっているのは明らかである。

3) 今後も今の住所に住みたいか(第17-3表)

「住みたい」と答えたものは42.3%にのぼっていて、その傾向は過疎地50%、市街地34.6%と、過疎地に多くみられるという興味あるものである。

4) 今の住居や環境がこどもに望ましいか(第17-4表)

(1) 「良好と思う」ものは64.7%、(良好とは思わないものは33.5%)と過半数を占めていたが、この傾向は過疎地より市街地に多かった。

いずれにしろ、過疎地においては、以前に比べて、土地への執着、自然環境の認識とがうすれつつあるといえよう。

(2) 良好とは思えない理由(第17-5表)

市街地よりむしろ過疎地で「交通が激しい」という条件をあげているものが多いが、現在の過疎地の地域環境の一面を示したものといえよう。また過疎地では住居の環境をあげるものは市街地に比べて少ないが、「へんぴである」「公園が近くにない」など、文化環境の乏しさを訴えるものが比較的多い。

## IV 要 約

### 1. 調査目的と方法

過疎地域における母子保健の問題点を解決するための資料を得るために、本年度は次の二つの視点で研究調査を行った。

1) 5県(新潟、鳥取、福岡、鹿児島、山口)の過疎地域における母子保健の調査：松島と高橋は昭和48年9月より昭和49年2月までの間に上記5県につき、過疎地域250名と同県の中心的都市250名に対し、3歳児検診の場においてアンケート方式の調査を行った。

その中で記載の完全なもの計600例を選んで集計した。なお、山口県のアンケートは集計に間に合わなかったので除外した。

2) 木村は長野県における医療機関を中心にした母性保健の調査をした。

### 2. 調査結果

#### 1) 家族のプロフィール

(1) 過疎地域では核家族が約50%を占め、特に鹿児島県にこの傾向が強く、新潟県で弱かった。

(2) 父の職業では公務員、農業、会社員が多くみられ、母のそれでは無職が少く(44%)、農業が27%と多かった。出稼ぎは過疎地7.7%、市街地2%で、とくに新潟に多くみられた。

(3) 父母の学歴はともに、中等教育をうけたものも多く、ついで初等教育をうけたものである。

#### 2) 母子の健康

(1) 小児では約30%に困る問題があるが、過疎地では市街地よりも栄養の問題が比較的多く、心理的問題は少い傾向にある。また、健康状態に問題のある子は市街地に比べて約半分しかない。とくに、慢性疾患保有者は市街地の半にしかみられなかった。

(2) 母親の健康状態は過疎地の方がよく、問題のあるものは3.7%(市街地5.3%)である。また、母親の慢性疾患保有率も同じ傾向にある。

### 3. 小児の発育

1) 出生時体重は過疎地域と市街地どでは、統計ではほとんど差がみられず、その平均値は全国平均に近かった。低体重児の発生頻度は5.3%と低かった。

2) 身長は小さいものが多く、とくに福岡、鹿児島、両県の過疎地に著しかった。

3) カウプ指数はやせが多く、栄養失調症が1.3%(市街地0.3%)にみられたが、肥満傾向も少数(1.3%)にみられた。

### 4. 小児の栄養

1) 過疎地の小児は市街地の小児より食欲不振が多く、食欲旺盛な子が多い。

2) また、過疎地の小児の食事の内容は、肉と脂肪の使用が少く、卵、魚、大豆製品の使用が多い。

3) 4カ月における乳児の栄養方法は過疎地で、母乳31%、混合31%、人工38%で、市街地に比べて、母乳がやや多く、人工が少なかったが、県別にみると差が大きく、母乳は鹿児島県で多く(過疎48%、市街42%)、新潟県では両地域ともに著しく低い(15%、17%)のが特徴的であった。

4) 断乳の時期は、昼間では1歳未満が71%、夜間は1歳までに58%、1歳代15%で、2歳以後は少数であった。

5) 離乳の開始は7カ月以後が30%(市街20%)にも及んでいて、離乳完了は1歳以後が60%、とくに1歳6カ月以後が10%にもみられた。これは、市街地にもみられた傾向である。即ち、離乳の開始、完了ともに遅いも

のが多くみられたということである。

## 5. 小児の生活と世話

過疎地の子どもの生活には次のような特徴がみられる。

① しつけの方法や内容が市街地と異なり、排便のしつけなどを開始する時期が遅く、また添寝なども遅くまで行われている。従って、排便の予告などは市街地より大分遅くなる。

② 育児に関する設備や用品などは乏しい状態にある。例えば、こども用便器などを備えた家庭は市街地よりずっと少ない。

③ 生活のリズムが自然である。戸外での遊び時間が長く、室内での遊びは少ない。

④ 母親が多忙なため、母子の接触は乏しい。育児の世話の多くを祖母の手に頼っている家庭がまだまだ多い。

⑤ 着衣などについては、過保護といえるほど厚着をさせている。

⑥ 過疎現象が進むと、近隣に友達がもてなくなる。

## 6. 医療保健機関

### 1) 医療

(1) 一般に家庭常備医療品の保有率は良であった。

(2) 過疎地でも医療機関までの距離は近いが私立診療所が大半を占めている。

(3) 年間の利用度では小児が3～5回、母親では2回以下が多かったが、これは市街地に比べて少ない傾向にあった。

(4) 急病の発生時には、医師の所へ、自動車で行くものが大部分を占めており、医師に往診を依頼することは比較的少ない。しかし、市街地に比べると往診依頼の頻度は約4倍高い。

### 2) 保健

(1) 過疎地では乳幼児及び妊婦検診の受診率は、市街地より高い。

(2) 出産場所は病院が最も多いが、自宅分娩が19.3%と市街地の2倍以上に達していて、これはとくに鹿児島県に多い。母子保健センター(6%)や助産所(4%)の利用は、市街地よりやや多い程度である。

(3) 妊娠中の健康管理は97%が受けているが、過疎地では医師による管理が53%(市街地67%)と低く、助産婦や保健婦による管理が市街地の1.5倍に上る。

## 7. 母親の要望

### 1) 医療機関

地区に総合病院や診療所を設置し、救急体制の整備、とくに小児科医を望む声が強かった。

### 2) 保健所

地域住民の生活環境と健康を守るに足る人的、物的条件の充実と住民との連絡機能の拡大を望んでいる。

3) 母親自身では、過労に陥っているものが多いので、休養、栄養、自由時間を求める声と定期的健康診断を望んでいる。

4) 育児上の懸念では、複合家族のために、嫁と姑のしつけのくい違いが最も深刻な問題であり、また、小児の健康増進のための条件(友達がいない、遊び場がない、保育所不足)の改善が望まれている。

## 8. 小児に対する父母の期待

1) 将来つかせるべき職業は、本人の希望通りが多いが、分らないとするものが大半であって、こどもに家業を継がせたいと答えたのは6%にすぎなかった。

2) 今の住居に今後とも住み続けたいと答えたものが50%(市街地34%)と多く、今の住居が小児の将来に望ましい環境にあると答えたものは61%(市街地67%)に上っている点から考えると、地域に根ざした母子保健の充実が重要であることを感じさせるものである。

## 9. 長野県に於ける母性保健管理

木村は、長野県下の医療機関に於ける母性保健管理の調査をした結果、要員のスタッフ数の不足、病院の機能面に関する問題があることを述べている。

以上のことから、過疎地域における母子保健には、その家族の問題と、発育と栄養の問題、そして医療保健上の問題などいろいろあることがクローズ・アップされてきた。

### 1. これに対する施策としては、行政上

#### 1) 救急体制をも含めた基幹病院の整備

2) 過疎地域に医師がいない場合は、医療施設と基幹病院との間に工業用のテレビなどの通信網を設置することを促す必要がある。そういうテレビは基幹病院に運ぶ必要があるか否かの判別に使いうるであろう。(心電図、陣痛記録などを映し出して、それらの判定にも使うことができる)

2. 過疎地域の母子保健問題は、医療保健の問題だけでなく、経済、文化、産業などの進行も並行して行われるべきであり、地域住民の全体的なレベルアップを計らなければならない。さもなければ、医療保健の向上は望めないであろうと考えられる。